

平成29年度シラバス

東京大学全学研究科等横断型教育プログラム

Japan-Asian Studies Program Academic Year 2017 - 2018

「日本・アジア学」教育プログラムは、

文系・理系を問わず、

激動するアジアを広く、

そして深く知ることができる

カリキュラムです。

アジアをつなぐ旅に出よう

日本・アジア学

参加資格
Eligibility

東京大学の大学院生
(所属研究科・教育部は問いません)

All graduate students of the University of Tokyo
(Regardless of graduate school or educational department)

修了要件
Completion
criteria

12単位
(言語科目群は4単位まで)

12 credits
(No more than four from language-related disciplines)

修了証
Certificate
of Program
Completion

東京大学が授与する
正式な修了証

Certificate formally awarded
by the University of Tokyo

Introduction



「日本・アジア学」教育プログラムとは

日本を含むアジアについての教育活動を、部局と分野を超えて新たに体系化・総合化したもので、意欲ある大学院学生のみなさんが、所属する研究科・教育部局固有の教育カリキュラムに加えて履修し、修了するものです。

本プログラムは、総合科目群と言語科目群に大別されます。総合科目群は、本プログラムの中核をなすもので、分野横断・部局横断のカリキュラムを通じて、日本を含むアジアについて理解を深めるものです。各研究科・教育部において正規課程の科目として実施される授業がこれに該当します。総論、社会・文化論、社会技術論、自然環境論、健康論、情報論、特論からなります。また言語科目群は、教養学部あるいは文学部の学部後期課程(3-4年生)で開講される外国語科目のうち日本・アジアと関わるものを、意欲ある大学院学生が履修することを奨励するものです。

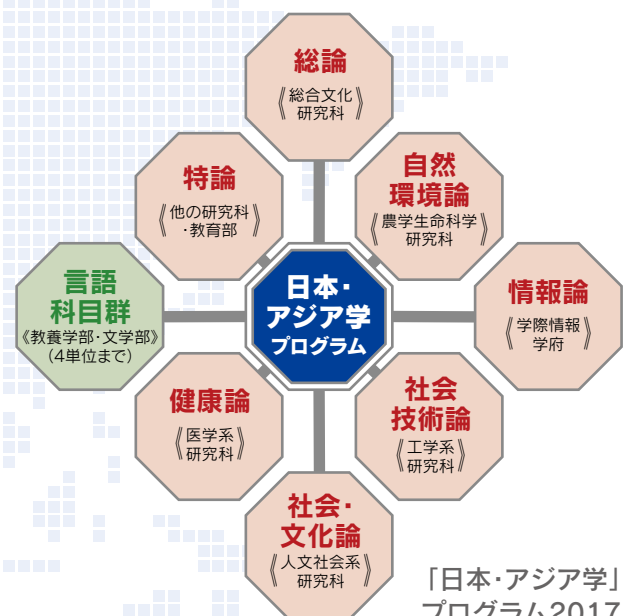
総合科目群のみから、あるいは言語科目群と総合科目群の合計で12単位以上を取得し、大学院修士課程または博士課程を修了(博士課程満期退学を含む)した場合に、プログラムの修了を認定し、修了証を発行します。ただし、言語科目群から取得した単位を、修了要件の一部とする場合には、4単位を上限とします。

Japan-Asian Studies Program

The Japan-Asian Studies Program is an educational undertaking that represents a new systemization and a newly comprehensive approach to Asia, including Japan, that transcends departments and fields. It can be participated in and completed by all graduate students interested in it as a supplement to the specific educational curriculum of whatever graduate school or faculty department they belong to.

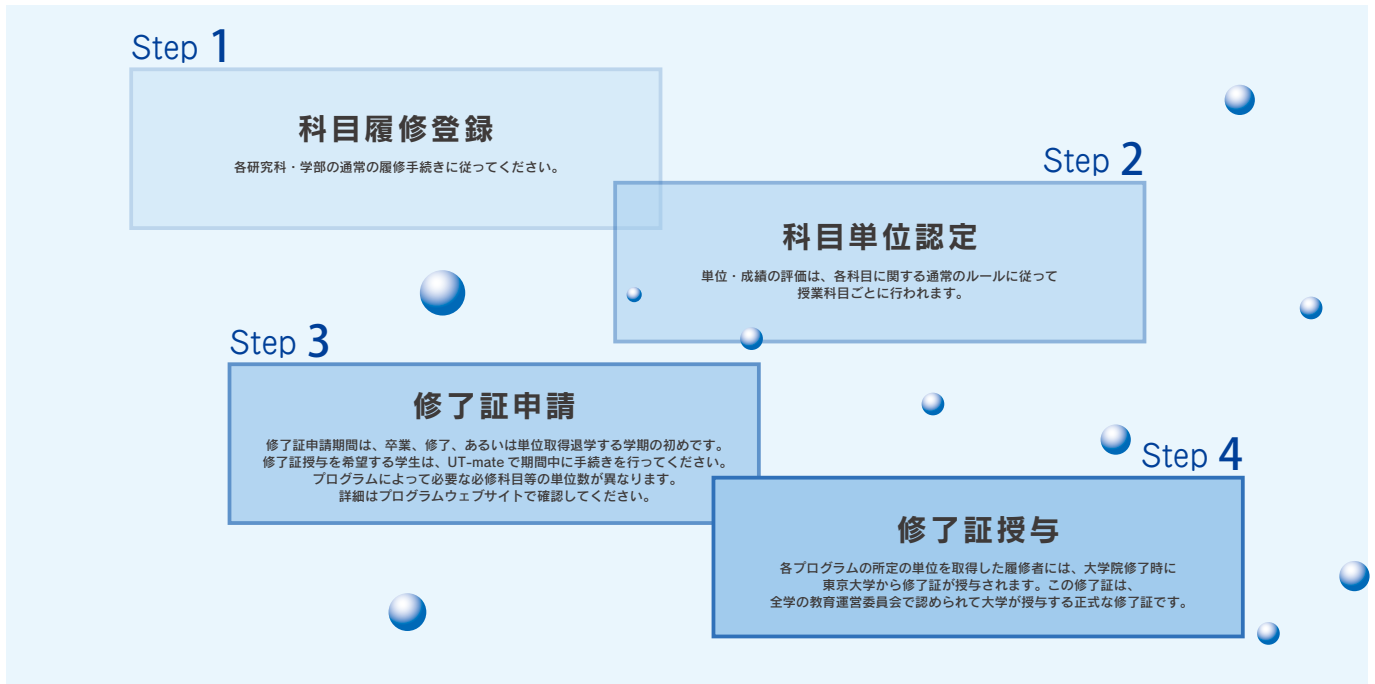
The program can be broadly divided into general and language-related subjects. The general subjects form the core of the program, and offer a deeper understanding of Asia, including Japan, by way of an interdisciplinary, interdepartmental curriculum. Classes held by each graduate school and faculty as part of its standard curriculum come under the program, which comprises Liberal Arts and Sciences, Society and Culture, Social Technology, Natural Environment, Health Sciences, Information Sciences, and Advanced Studies. Furthermore, when it comes to language-related disciplines, students who wish to do so are encouraged to take the Asian foreign language courses offered in the Undergraduate course senior division (third and fourth year) curriculum of the College of Arts and Sciences and Faculty of Letters.

In the case of a total of 12 or more credits having been gained from general theory-related disciplines only or from language-related disciplines and general theory-related disciplines, and with the completion of graduate program, recognition will be given of Japan-Asian Studies program completion, and a certificate of completion will be issued. However, no more than four credits may be gained from language-related disciplines for the purposes of satisfying completion requirements.



「日本・アジア学」
プログラム2017

Japan-Asian
Studies Program 2017



| | |
|--|--|
| <p>1 科目履修方法</p> <p>東京大学のすべての大学院研究科・教育部に所属している学生が履修できます。修了証の取得を目的とした履修だけでなく、個々の科目のみを履修することも歓迎します。</p> <p>履修にあたっては、UT-mate上で登録を行ってください。ただし、UT-mateに対応していない研究科・教育部局の学生は教務課にて手続きを行ってください。</p> <p>また、履修する科目が所属している研究科・教育部の科目となっていない場合には「他研究科(教育部)履修」の手続きを、また言語科目群の履修は「学部科目履修」の手続きを行ってください。</p> | <p>1. Program participation: Enrolling each course</p> <p>All students in the University of Tokyo's graduate schools may take part in the program. Students who take part not for the purpose of gaining a certificate of completion but only for certain courses are also welcome.</p> <p>To enroll, please follow the prescribed enrolment procedures of your graduate school. In case the course you are taking is not part of the graduate school to which you belong, please complete the "Other graduate school enrolment" procedures, or, for the language-related disciplines, the "Undergraduate course enrolment" procedures.</p> |
| <p>2 プログラムへの参加</p> <p>「日本・アジア学」プログラムに参加しようと考えている方は、下記のホームページで連絡先等の登録を行ってください。事務局から、適宜、連絡を受けることができます。</p> <p>https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/subscribe</p> | <p>2. Program participation: Enrolling the program</p> <p>All students who wish to receive the Certificate of Completion are required to register at the following URL. The Managing Committee or the network office will hereafter provide you with necessary information.</p> <p>https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/subscribe</p> |
| <p>3 修了</p> <p>修了要件である12単位(言語科目群からは4単位まで)を満たしたものは、課程修了前(単位取得満期退学含む)にUT-mateにて手続きを行ってください。手続きの時期等は、各研究科の掲示板ならびにASNETのホームページにて通知されます。ただし、所属部局がUT-mateに対応していない場合は、所属部局の大学院係・教務係に手続きを聞いてください。</p> | <p>3. Completion</p> <p>Please submit Certificate Request through UT-mate website, if you are able to use the UT-mate system. Otherwise, please ask the network office. [Note: UT-mate is at present available only in Japanese. Please contact the office if you cannot read Japanese].</p> |
| <p>4 注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ●最新情報は常にホームページで確認してください。 ●何かわからないことがあれば、お気軽に事務局までご連絡ください。 <p>https://asnet-utokyo.jp/</p> | <p>4. Important points.</p> <ul style="list-style-type: none"> >Please check the website regularly for information updates. >Please direct any inquiries to the network office. <p>https://asnet-utokyo.jp/</p> |

受講生の声

● 受講生／相馬 尚之

● 所 属／総合文化研究科超域文化科学専攻

学び尽くせないほどの広い世界を感じて

ASNET では2つのオムニバス講義を履修するとともに、スタディツアー「インドでの多様な宗教実践と共存に関するフィールドワーク」に参加しました。私の所属は表象文化論で、主にドイツ文学と近代科学史を学んでいます。一見無関係に思えるアジア研究ですが、格差やジェンダーなど共通する課題も多く、一方でアジアの歴史や特色を知ることができるため、西欧中心に傾きがちな学生にも良い相対化の機会となります。とりわけインド研修では、モスク等の訪問に加え日本や欧米と異なるインドの空気を肌で感じ、更にはアジアをフィールドとする先生方や工学系・農学系など様々な専攻の学生の視点に多くのことを考えさせられました。

大学は専門家を目指す場所ですが、私達はとても学び尽くせないほど広い世界に住んでいることを忘れてはなりません。本プログラムでは、多様性の中で自分の感性を磨くことの大切さと、現場に飛び込んでいく勇気を学ぶことができるのではないのでしょうか。



ラクナウのイスラム教施設にて（インド・スタディツアー）

● 受講生／金 知原

● 所 属／総合文化研究科地域文化研究専攻

新たな視点から、日本とアジアを学ぶ機会

私は韓国で学部を卒業して、東京大学大学院で日本史学を勉強しています。学部での専攻が東洋史学でしたので、学部時代に日本の歴史や文化だけでなく、中国や東南アジアなどのアジア地域の歴史を学ぶ機会がありました。そして、大学院に進学してから、アジア地域への関心を維持したいと思い、2016年1学期から、日本・アジア学プログラムを履修しています。



書き直される中国近現代史の授業風景

とくに印象的だった授業は、2016年2学期に履修した「書き直される中国近現代史」でした。中国の研究をする日本人教授の説明と、中国大使館に勤務する中国人外交官たちの経験談を聞きながら、中国という国について新たに学びました。また、ASNET 機構で開催されるセミナーやシンポジウムに参加し、アジアを研究する学者たちと対話ことができました。これは研究者を志望する学生にとって、とても良い機会だと思いました。

- 受講生／鈴木 亜紀
- 所 属／医学系研究科国際保健学専攻

アジアの中の日本

アジアは全陸地面積の約 30%を占め、世界人口の約 64%が暮らしているとされている。よって一概にアジアといっても地理的、言語的、文化的、民族的に多様である。その反面共通点も多く、見る角度によって全く異なる多彩な表情を見せてくれる。

この日本・アジア学教育プログラムを受講すると、そんな広大なアジアの中の日本を意識する良い機会となる。例えば、途上国農村経済論では途上国の経済発展に伴う農村の構造変化の中に、かつての日本との相違や共通点を見出せた。小千谷でのフィールドワークでは牛の角突きという日本の伝統行事に触れ新たな日本の一面を知ることができた。さらにインドネシアでのフィールドワークは国外から日本を見ることができた素晴らしい経験となった。

アジアを学ぶことは間接的に日本を学ぶことである。皆さんにはこのプログラムを通してぜひ新しい日本を発見してもらいたい。



果敢に闘う牛たち（小千谷の角突き）

- 受講生／梁 英宗
- 所 属／工学系研究科システム創成学専攻

2016 年秋天，我很幸运地参加了由 ASNET 组织的印度尼西亚访学活动。与我同行的还有来自农学系和医学系的同学们，大家有着不同的专业背景，在荒木先生的带领下开展了为期一周（9 月 11 日～ 17 日）的调研活动。

那是我第一次前往中国和日本以外的国家，所以我在整个活动期间都充满了好奇与兴奋。行程的第一天，飞机降落在雅加达国际机场时已是傍晚时分，巴士穿过沉沉暮色载着我们一行人驶向素有“雅加达后花园”之称的茂物。翌日，恰逢当地假日，荒木先生便带着我们游览了雅加达市区。大规模基础设施的兴建随处可见，经济建设带来的繁荣正让这座城市显得生机勃勃。在接下来的几日里，我们乘坐火车、城市快速公交 BRT、出租车等交通工具往返于茂物与雅加达之间，先后访问了印度尼西亚大学和茂物农业大学，并与茂物农业大学的学生们一起参观了茂物植物园，并借此进一步促进了我们之间的学术交流。



現地の研究者・院生との交流（インドネシア・スタディツアー）

感谢 ASNET 为有着不同文化教育背景的我们提供了如此丰富而多元的课程与实践活动，极大地开阔了我们的视野，加深了我们对于不同风土人情和文化习俗的认识与理解，为日后我们国际化的交流打下了良好的基础。

科目紹介

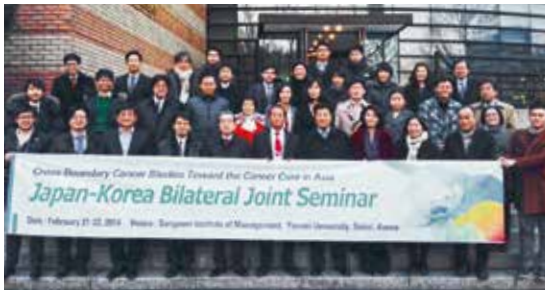
- 担当教員：後藤絵美（ASNET）
- 科目名：アジアの近代と女性

19世紀後半から20世紀前半にかけて、アジアの各地では、政治や社会を取り巻く状況が大きく変化しました。帝国主義と民族主義のせめぎ合い、新しい教育制度や社会制度の導入、出版技術や交通機関の発達。そうした動きが当時のアジア内外に生きていた人びとの思考や暮らしに、どのような影響を与えたのかを、本講義では、とくに「女性」にかかわるトピックに注目しつつ眺めていきます。イギリスの牧師の娘たちは、アジアに視線を向けながら、何を自分の「使命」と考えたのか。英占領下のエジプトやオランダ領の東インドで、人々はどうのような葛藤を抱えていたのか。異なる時期の日本で、ファッションが何を意味していたのか。そして、女性たちは政治・社会運動の中でどのような役割を果たしたのか。本講義では、多様な切り口から、「アジアの近代と女性」に接近していきます。この授業を通して、アジアの歴史や人びとの経験について、より広い視野と、深い洞察力を身につけることを目指します。



1919年、エジプトでイギリスの占領に対する大規模な抗議運動が始まった。首都カイロでは、それまで慣習的に人前に立つことのなかった女性たちも街頭デモに参加した。

- 担当教員：赤座英之（情報学環）・河原ノリエ（情報学環）
- 科目名：アジアでがんを生き延びる



この授業の受講生も参加して「Cross-boundary Cancer Studies」という学際連携プログラムが日中韓の大学連携としてスタートしている。（延世大学にて）

高齢化社会に突入していく日本とアジア。がんという共有課題を通して、高齢化、医療格差、死生観の変容、グローバリズムとナショナリズムのねじれなど、アジアの今日的な課題が浮かび上がってくる。

オムニバス形式の講義では、がんを医学はもとより、政治・経済・文化など様々な領域から捉える問いへの探求を軸として、日本とアジアのありようを読み解いていく。

研究とは自らの問題意識を丁寧に育てていくことである。受講者は、アジアのがんという事象に対峙して、各テーマごとに深掘りされていく場所へと降りていくことで、自らが寄ってたつ研究の相対化を促される仕掛けともなっている。

- 担当教員：Tetsuya ARAKI (Agricultural and Life Science)
- 科目名：アジアの食と農・環境 ～農学国際特論Ⅲ～ (Food, Agriculture and Environment in Asia)

In addition to the dictionary meaning of food (something that living creatures take into their bodies to provide them with energy and to help them to develop and to live), agriculture (the practice or science of farming, esp. of growing crops) and environment (the natural conditions, such as air, water, and land, in which people, animals, and plants live), the real world of food, agriculture and environment in Asia makes people find many kinds of diversity. The course is a series of intensive lectures, given in English by visiting professors from Asia and Oceania regions, for the participants to acquire multiple viewpoints for tackling the problems of food, agriculture and environment against the reality at the local as well as global scales.



Study trips are guided by the ASNET staff in collaboration with visiting professors from Asia and Oceania regions (Bogor Agricultural University in Indonesia on September, 2016).

Contents

目次

| 分野 | 科目名 | 担当教員 | 学期 | ウェブページ | ページ |
|----------|--|------------------|-----|---|------|
| 総論 | ● アジアの近代と女性 (地域文化研究特別講義 I) | 後藤絵美 | S | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1752 | P.07 |
| | ● アジアのフィールドワーク論 (地域文化研究特別講義 II) | 荒木徹也・後藤絵美 | S | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1755 | P.07 |
| | ● アジアでがんを生き延びる (地域文化研究特別講義 II) | 赤座英之・河原ノリエ | S | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1757 | P.08 |
| | ● 現代民俗学の可能性と課題 (通文化研究基礎論 I) | 菅豊 | S | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1758 | P.08 |
| | ● 中東の経済発展・政治変動と文化社会変容 (通文化研究基礎論 II) | 長澤榮治 | S | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1759 | P.09 |
| | ● 途上国農村経済論 (アジア太平洋地域文化演習 II) | 高橋昭雄 | S | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1761 | P.09 |
| | ● 人間環境論 II | 永田淳嗣 | S | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1762 | P.10 |
| | ● 朝鮮半島をめぐる政治経済・国際政治 (多元地域協力論 I) | 木宮正史 | S | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1763 | P.10 |
| | ● 書き直される中国近現代史 X (国際社会科学特別講義 IV) | 川島真 | A | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1764 | P.11 |
| | ● サステナビリティの戦略 II | 永田淳嗣 | A | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1765 | P.11 |
| | ● 戦後初期日本の民族関係 (アジア太平洋地域文化演習 II) | 外村大 | A | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1760 | P.12 |
| | ● イスラームの近現代史を再考する (地域文化研究特別講義 II) | 後藤絵美 | A | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1766 | P.12 |
| 社会・文化論 | ● 民族誌と歴史 (韓国朝鮮言語社会演習) | 本田洋 | S | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1767 | P.13 |
| | ● 韓国の社会人類学 (韓国朝鮮言語社会特殊研究) | 本田洋 | S | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1768 | P.13 |
| | ● 近代アジアの開発と社会変化 (1)(2) (比較アジア社会文化論演習) | 水島司 | S/A | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1770 | P.14 |
| | ● グローバル・ヒストリーとアジア (1)(2) (比較アジア社会文化論演習) | 水島司 | S/A | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1769 | P.14 |
| 社会・文化論 | ● Advanced Lectures on Sociotechnology | HORII Hideyuki | S | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1771 | P.15 |
| | ● Case Studies of International Projects | HORII Hideyuki | A | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1772 | P.15 |
| 自然環境論 | ● アジアの食と農・環境 (農学国際特論 III) | 荒木徹也 | 集中 | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1773 | P.16 |
| | ● サステナビリティ学特論 (食料生産生態学特別講義) | 鴨下顕彦 | 集中 | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1774 | P.16 |
| | ● 農業からみたアジア史 (農業史特論 I・II・III・IV) | 松本武祝・戸石七生 | S/A | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1775 | P.17 |
| 健康論 | ● 国際地域保健学特論 I | 神馬征峰 | S1 | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1776 | P.17 |
| | ● 人類生態学特論 I | 渡辺知保・梅崎昌裕 | S1 | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1777 | P.18 |
| | ● 医療コミュニケーション学講義 | 石川ひろの | S1 | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1779 | P.18 |
| | ● 医療コミュニケーション学演習 | 石川ひろの・岡田昌史 | S2 | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1780 | P.19 |
| | ● 精神保健学特論 I | 川上憲人 | S | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1781 | P.19 |
| | ● 精神保健学特論 II | 川上憲人 | A | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1782 | P.20 |
| | ● 健康社会学 | 橋本英樹 | A1 | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1783 | P.20 |
| | ● 健康教育学 | 橋本英樹 | A2 | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1778 | P.21 |
| 情報論 | ● International Conflict Study (ITASIA124) | FUJIWARA Kiichi | S | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1784 | P.21 |
| | ● Modern Japanese Diplomacy (ITASIA131) | KOHARA Masahiro | S | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1785 | P.22 |
| | ● Introduction to Asian Studies: History and International Relations (ITASIA101) | MATSUDA Yasuhiro | A1 | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1786 | P.22 |
| | ● Surviving Cancer in Asia (ITASIA128) | AKAZA Hideyuki | A | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1787 | P.22 |
| | ● Japanese Foreign Economic Policy (ITASIA133) | IIDA Keisuke | A | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1788 | P.23 |
| | ● Japan in Hong Kong (ITASIA129) | SONODA Shigeto | 集中 | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1789 | P.23 |
| | ● 文化・人間情報学特論 I | 真鍋祐子 | A | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1790 | P.23 |
| 特論 教養 | ● 東アジア産業論 I・II (国際経済特論) | 丸川知雄 | S/A | https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1791 | P.24 |
| | ● 地域文化論 I (日本・アジア学概論: 国際社会で活躍する基盤を身に付ける) | ASNET 関連教員 | S | https://asnet-utokyo.jp/education/under-graduate | P.27 |

アジアの近代と女性 ～地域文化研究特別講義Ⅰ～

Advanced Lecture in Asian Studies I

| | | | |
|--------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|--|
| 科目番号 Course ID Number | 31M220-1312S 31D220-1312S | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | 後藤絵美 (ASNET) Emi Goto (ASNET) | 場 所 Venue | 駒場キャンパス 8号館 8-324 Room 324, Bldg no. 8, Komaba campus |
| 授業時間 Semester/Time | S semester 月 (Mon) 2限 (10:25-12:10) | 履修上の注意 Notes on Taking the Course | 受講者には報告あるいは感想・質問文の提出を課す回がある。 |

授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview

本講義は、19世紀から20世紀のアジア諸地域における女性をめぐる動きに焦点をあてることで、「アジアの近代」について新しい視角や視点を模索しようとするものである。近代とは多様な社会改革が行われた時期であり、帝国主義と民族主義のせめぎ合いが社会の諸相に大きな影響を与えた時代である。この時期、アジア諸国では、欧米に続く形で新しい教育システムや出版技術が採り入れられ、知識や権威のあり方に大きな転換が見られた。本講義では、そうした状況下、「女性」の存在がどのように問題化し、議論され、また女性自身がその中にどう関わった（あるいは関わらなかった）のかを、異なる地域の歴史と文化を専門とする研究者による著述の講読と講義とによって考えていく。

- 4月10日 オリエンテーション：地域を超えて存在したもの—Mission, Fashion, Passion
- 4月17日 文献講読 ①②
- 4月24日 山口みどり「私たちの使命—イングランド国教会牧師の娘たち」
- 5月1日 後藤絵美「近代化というミッション—英占領下エジプト知識人たちの苦悩」
- 5月8日 文献講読 ③④
- 5月15日 青木淳子「プロレタリア文学に描かれた新しい女性像—ファッションを視覚として」
- 5月22日 中野嘉子「戦後「日本」のブランディングと女性—アメリカのまなざし、着物姿のおもてなし」
- 6月5日 文献講読 ⑤⑥
- 6月12日 宇野陽子「トルコ革命と女性たち—運動と国策のはざままで」
- 6月19日 野中葉「プラムディア文学に見る20世紀初頭の蘭領東インドの女性像」
- 6月26日 文献講読 ⑦
- 7月3日 李美淑「近代初期の朝鮮女性の主体形成と3.1運動」
- 7月10日 講義のまとめ

詳しい情報はこちらで→



アジアのフィールドワーク論—「食と社会」編 ～地域文化研究特別講義Ⅱ～

Advanced Lecture in Asian Studies II

| | | | |
|--------------------------|--|--------------------------------------|---|
| 科目番号 Course ID Number | 31M220-1322S 31D220-1322S | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | 荒木徹也（農学生命科学）・後藤絵美 (ASNET) Tetsuya Araki (Agricultural and Life Science), Emi Goto (ASNET) | 場 所 Venue | 東洋文化研究所三階第一会議室 Meeting Room 1, 3rd floor, Institute for advanced Studies on Asia, Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | S semester 水 (Wed) 4限 (14:55-16:40) | 履修上の注意 Notes on Taking the Course | 受講者には報告あるいは感想・質問文の提出を課す回がある。 |

授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview

今年度は食と社会をキーワードに、多様な学問分野・対象地域を専門とするアジア研究者や実務者の経験や議論を参照しつつ、フィールドワークについて学ぶ。

- 第1回 (4/19) イントロダクション（荒木徹也・後藤絵美）
- 第2回 (4/26) 総論：アジア学のすすめ（赤嶺淳）
- 第3回 (5/10) 各論1：チモールのコーヒー（福武慎太郎）
- 第4回 (5/17) 各論2：中国・四川料理の流派と歴史的変遷（荒木徹也）
- 第5回 (5/24) 各論3：中国における食の安全・安心に関する諸問題（徐行）
- 第6回 (5/31) 各論4：インドネシアの廃棄物処理（佐々木俊介）
- 第7回 (6/7) 各論5：インドネシアの栄養改善と給食プロジェクト（関山牧子）
- 第8回 (6/14) 各論6：日本とアジアの食文化と食品産業（荒木徹也）
- 第9回 (6/21) 各論7：イスラームとハラール（後藤絵美）
- 第10回 (6/28) 各論8：アジアにおけるハラール産業（福島康博）
- 第11回 (7/5) 各論9：日本におけるハラール産業（後藤絵美）
- 第12回 (7/12) まとめ（荒木徹也・後藤絵美）

詳しい情報はこちらで→



分野／総論 (総合文化研究科) Field : Liberal Arts and Sciences

単位 / 2 Credit : 2

アジアでがんを生き延びる ～地域文化研究特別講義 II～

Surviving Cancer in Asia

| | | | |
|--|--|--------------------------------------|---|
| 科目番号 Course ID Number | 31M220-1314S 31D220-1314S 4990180 | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | 赤座英之 (情報学環)・河原ノリエ (情報学環) Hideyuki Akaza (Interfaculty Initiative in Information Studies) Norie Kawahara (Interfaculty Initiative in Information Studies) | 場 Venue | 医学部教育研究棟 第1 セミナー室他 Seminar Room 1, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | S semester 月 (Mon) 4 限 (14:55-16:40) | 履修上の注意 Notes on Taking the Course | 冬学期に本授業と連動した授業を開講予定 ITASIA128 Surviving Cancer in Asia |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | <p>がんというアジアの喫緊の共有課題を通して、高齢化、経済格差、死生観の変容、グローバリズムとナショナリズムのねじれなど、アジアの今日的な課題が浮かび上がってくる。本講義は、がんを医学はもとより、政治・経済・文化など様々な領域から捉えてみることを通して、世界の内実を読み解くことを学問的考察の端緒とする学際連携プログラム「Cross-boundary Cancer Studies」の一環に位置づけられている。</p> <p>4/10 吉見俊哉 (東京大学) 学際研究とアジアのがん 4/24 波平恵美子 (お茶の水女子大学) 質的研究への批判的評価と対応—「エッセイ」とみなされないための課題とは? 5/ 8 五十嵐中 (東京大学) ポスト・トゥルース時代の医療経済 5/22 赤座英之 (東京大学) Cross-boundary Cancer Studies 5/29 栗田浩 (小野薬品工業株式会社) 社会課題 と イノベーション 6/12 平野宏一 (株式会社 ヤクルト本社) 癌予防と社会 6/19 服部幸應 (服部栄養専門学校) 食と文化とやまい 6/26 河原ノリエ (東京大学) アクションリサーチ・地域コミュニティーとがん 7/ 3 中谷比呂志 (慶應大学) 国際保健の中のがん 7/10 特別授業 藤崎一郎 (上智大学) × 吉見俊哉 (東京大学) × 赤座英之 (東京大学) 日本・アメリカ・アジア —いまこの世界をどんな視点で読み解けばよいのか? 7/24 学生発表 詳細は 研究室 HP www.siccn.org</p> | | |

詳しい情報はこちらで→



分野／総論 (総合文化研究科) Field : Liberal Arts and Sciences

単位 / 2 Credit : 2

現代民俗学の可能性と課題—日常生活のあたりまえを問い直す ～通文化研究基礎論 I～

| | | | |
|--|---|------------------|---|
| 科目番号 Course ID Number | 31M220-1132S 31D220-1132S | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | 菅豊 (東洋文化研究所) Yutaka Suga (Advanced Studies on Asia) | 場 Venue | 東洋文化研究所 706 室 Room 706, Institute for Advanced Studies on Asia, Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | S semester 水 (Wed) 1 限 (8:30-10:15) | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | <p>民俗学は、過去に拘束された「日常生活」文化に関心をもち続けてきた。それはあたりまえとして見過ごされがちな、身の回りの所与の世界や事物に対する理解行為であった。そしてそれは、眼前に広がる世界に存在する現象や事物の自明性を疑う行為であり、さらに、自明のこととして思考を停止させている素朴な日常の見方 (自然的態度) を疑う批判的、批評的行為であった。しかし、その批判性や評論性は、現在の民俗学からは失われている。本授業では、現代社会において「評論としての民俗学」を再構築、強化するための視点、目的、手法について、自己の研究課題と対照させながら実践的に学ぶ。</p> | | |
| 履修上の注意 Notes on Taking the Course | <p>初回開講は 4 月 12 日 (水) 1 限 9:00am の予定。初回開講日は開講時間変更の可能性があり、また開講教室確定の都合のため、受講希望者は 4 月 10 日 (月) までに菅宛にメール (suga@ioc.u-tokyo.ac.jp) で連絡すること。</p> | | |

詳しい情報はこちらで→



中東の経済発展・政治変動と文化社会変容 ～通文化研究基礎論Ⅱ～

| | | | |
|--|--|------------------|---|
| 科目番号 Course ID Number | 31M220-1140S 31D220-1140S | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | 長澤榮治（東文研） Eiji Nagasawa (Advanced Studies on Asia) | 場 所 Venue | 東洋文化研究所 804 室 Room 804, Institute for Advanced Studies on Asia, Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | S semester 水 (Wed) 3 限 (13:00-14:45) | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | <p>中東の社会変容に関する考察を通じて、同地域が直面する様々な問題に対する客観的な分析を可能にする方法論的態度を学ぶ。</p> <p>中東諸国の経済発展と政治変動、およびそれに伴う文化社会変容をめぐる諸問題を多面的に考察する。今年度は近代国家・イスラーム・法に関する文献を購読する。</p> <p>第一回 オリエンテーション 第二回以降 文献講読</p> | | |
| 履修上の注意 Notes on Taking the Course | 第一回は 4 月 12 日（水）13:00pm の予定 | | |

詳しい情報はこちらで→



途上国農村経済論 ～アジア太平洋地域文化演習Ⅱ～

| | | | |
|--|---|------------------|---|
| 科目番号 Course ID Number | 31M220-1002S 31D220-1002S | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | 高橋昭雄（東文研） Akio Takahashi (Advanced Studies on Asia) | 場 所 Venue | 東洋文化研究所 606 室 Room 606, Institute for Advanced Studies on Asia, Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | S semester 火 (Tue) 4 限 (14:55-16:40) | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | <p>発展途上国の農村社会経済について勉強する。「農業」経済ではなく「農村」社会経済であるので、当然のことながら、農村工業、労働移動、就業構造、都市化、貧困といった問題も含めて演習の課題とする。どのような 이슈に重点をおくかについては参加者と協議のうえ決定する。</p> | | |
| 履修上の注意 Notes on Taking the Course | 授業のテキストは、ゼミに参加する学生の専攻や意向を参考にして、最初の授業の日に決める。 | | |

詳しい情報はこちらで→



分野／総論（総合文化研究科） Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

人間環境論 II

Human Geography II

| | | | |
|--|---|------------------|--|
| 科目番号 Course ID Number | 31M282-0620S 31D282-0620S | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | 永田淳嗣（総合文化研究科） Junji Nagata (Arts and Sciences) | 場 所 Venue | 駒場キャンパス 2 号館 202 室 Room 202, Bldg no.2, Komaba campus |
| 授業時間 Semester/Time | S semester 火 (Tue) 3 限 (13:00-14:45) | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | 現代社会における社会変動と生態システム変化の複雑な関係を読み解くための、現場での現象理解に立脚した方法論・手法を受講者とともに探る。理論面とともに日本や東南アジアでの研究に基づく実践面からの検討を行う。 | | |
| 履修上の注意 Notes on Taking the Course | 主体的な問題意識を持ち、インテンシブな文献購読、濃密なディスカッション、十分に準備されたプレゼンテーションに意欲を持つものに受講を限る。 | | |

詳しい情報はこちらで→



分野／総論（総合文化研究科） Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

朝鮮半島をめぐる政治経済・国際政治 ～多元地域協力論 I～

| | | | |
|--|---|------------------|---|
| 科目番号 Course ID Number | 31M220-0011S 31D220-0011S | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | 木宮正史（学際情報学府） Tadashi Kimiya (Interfaculty Initiative in Information Studies) | 場 所 Venue | 駒場キャンパス 8 号館 8-110 Room 110, Bldg no. 8, Komaba campus |
| 授業時間 Semester/Time | S semester 月 (Mon) 3 限 (13:00-14:45) | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | 本授業では、韓国現代史における最も重要な人物である朴正熙に焦点を当て、その最先端の研究成果を読み、韓国現代史および朝鮮半島現代史、東アジア現代史に新たな視点を取り入れることを目指す。そのうえで、受講者の関心に沿って、韓国現代史、朝鮮半島現代史、東アジア現代史に関する事例研究を行い、発表してもらうことも考えている。 | | |
| 履修上の注意 Notes on Taking the Course | 本授業は、大学院法学政治学研究科との合併授業であり、場所は駒場 I キャンパスで行う。 | | |

詳しい情報はこちらで→



書き直される中国近現代史Ⅹ ～国際社会科学特別講義Ⅳ～

Specific Lecture: International Studies IV

| | | | |
|--------------------------------------|---|------------------|-----------------|
| 科目番号 Course ID Number | 31M230-1140A 31D230-1140A | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | 川島真（国際社会科学専攻） Shin Kawashima | 場 所 Venue | TBA |
| 授業時間 Semester/Time | A semester 木（Thu）5限（14:55-16:40） | | |
| 履修上の注意 Notes on Taking the Course | 予定が変更になることもあるので詳細は、東京大学現代中国研究拠点（社会科学研究所）ウェブサイトを参照されたい（ http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/kyoten/ ）。 | | |

授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview

この講義は、2017年度で第10回目を迎える。第一回（2008年度）は人物評価を、第二回（2009年度）は事件・運動を、第三回（2010年度）はローカルな空間や社会集団を軸に講義を組み立て、第四回（2011年度）は史料・資料に焦点を当て、第五回（2012年度）は主に若手研究者をゲストに招き、その視線から見た新しい研究動向を扱い、第六回（2013年度）は昨今進展著しい戦後東アジア国際政治史、東アジア冷戦史について、第七回は日中戦争史について多様な角度から検討し、第八回は「中国史の境界線－異質・多元・包摂－」として中国史の多様な語り方を考察し、第九回は「現代中国理解講座：現代中国への視線－歴史の視座と多様性－」として、政治、法律、行政、外交、経済、社会、思想文化などの多様な面から、とかく話題になる現代中国を多角的に捉えた。

今年は第十回目にあたるが、「近現代日中関係史：歴史・記憶・展望」として、昨今特に重要性がまし、また研究の進む日中関係史の分野について、多様な側面から多角的に検討する。とかく日本から見がちな日中関係、また現在の目線から捉えられがちな日中関係について、歴史的目線を大切にしながら理解する方法を学んで欲しい。

| | | |
|------|-----------|----------------------------|
| 第1回 | 9月28日（木） | 川島真（東京大学）「日清修好条規とその周辺」 |
| 第2回 | 10月5日（木） | 檜山幸夫（中京大学）「日清戦争研究の展開」 |
| 第3回 | 10月12日（木） | 村田雄二郎（東京大学）「戊戌変法と日中関係」 |
| 第4回 | 10月19日（木） | 櫻井良樹（麗澤大学）「華北駐屯軍と日中関係」 |
| 第5回 | 10月26日（木） | 海外からのゲスト講義 |
| 第6回 | 11月2日（木） | 海外からのゲスト講義 |
| 第7回 | 11月9日（木） | 加藤陽子（東京大学）「なぜ日本は中国と戦争したのか」 |
| 第8回 | 11月30日（木） | 海外からのゲスト講義 |
| 第9回 | 12月7日（木） | 海外からのゲスト講義 |
| 第10回 | 12月14日（木） | 井上正也（成蹊大学）「戦後日中関係史」 |
| 第11回 | 12月21日（木） | 海外からのゲスト講義 |
| 第12回 | 12月27日（水） | 海外からのゲスト講義 |
| 第13回 | 1月11日（木） | 阿古智子（東京大学）「中国社会と日本」 |

詳しい情報はこちらで→



サステナビリティの戦略Ⅱ

Sustainability Strategy II

| | | | |
|--|---|------------------|-----------------|
| 科目番号 Course ID Number | 31M290-0180A 31D290-0180A | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | 永田淳嗣（総合文化研究科） Junji Nagata (Art and Sciences) | 場 所 Venue | TBA |
| 授業時間 Semester/Time | A semester 火（Tue）3限（13:00-14:45） | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | 現代社会における社会変動と生態システム変化の複雑な関係を読み解くための、現場での現象理解に立脚した方法論・手法を受講者とともに探る。理論面とともに日本や東南アジアでの研究に基づく実践面からの検討を行う。 | | |
| 履修上の注意 Notes on Taking the Course | 主体的な問題意識を持ち、インテンシブな文献購読、濃密なディスカッション、十分に準備されたプレゼンテーションに意欲を持つものに受講を限る。 | | |

詳しい情報はこちらで→



分野／総論 (総合文化研究科) Field : Liberal Arts and Sciences

単位 / 2 Credit : 2

戦後初期日本の民族関係 ～アジア太平洋地域文化演習Ⅱ～

| | | | |
|--|---|------------------|-----------------|
| 科目番号 Course ID Number | 31M220-1000A 31D220-1000A | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | 外村大 (総合文化研究科) Masaru Tonomura (Arts and Sciences) | 場 所 Venue | TBA |
| 授業時間 Semester/Time | A semester 他未定 | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | <p>1945年から朝鮮戦争前後の時期について、日本社会のマジョリティである日本人とそれ以外のエスニックマイノリティとの関係に関わる史料を読んでいく。それを通じて、日本社会の特徴、その後の日本社会に与えた影響、それ以前の民族関係のあり方との連続と断絶などについて討論し、考えていく。</p> <p>最初の2回は、授業参加者の問題関心を踏まえて共通認識、この時期を把握するための前提として、日本戦後史、日本占領についての概説と研究状況の整理を行うとともに、具体的に読むべき史料について議論する。それを踏まえて、第3回以降は、史料の読解を進めていく。具体的に読解していく史料としては、GHQ文書中の在日朝鮮人の文書、プランゲ文庫中のエスニックマイノリティが関係する雑誌や新聞、関係団体の機関誌等である。</p> | | |
| 履修上の注意 Notes on Taking the Course | 朝鮮語の文献を扱うこともあるが、朝鮮語理解者のみに受講者を限定するわけではない。ただし、朝鮮語の読解が困難であるが受講を希望する者については事前に教員と連絡をとること。 | | |

詳しい情報はこちらで→



分野／総論 (総合文化研究科) Field : Liberal Arts and Sciences

単位 / 2 Credit : 2

イスラームの近現代史を再考する ～地域文化研究特別講義Ⅱ～

Advanced Lecture in Asian Studies II

| | | | |
|--|--|--------------------------------------|---|
| 科目番号 Course ID Number | 31M220-1326A 31D220-1326A | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | 後藤絵美 (ASNET) Emi Goto (ASNET) | 場 所 Venue | 東洋文化研究所三階第二会議室 Meeting Room 2, 3rd floor, Institute for advanced Studies on Asia, Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | A semester 月 (Mon) 2 限 (10:25-12:10) | 履修上の注意 Notes on Taking the Course | 受講者には報告を課す回がある。 |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | <p>2010年末に始まった「アラブの春」と呼ばれる民衆運動以後、西アジア・中東地域の各国では、それまで政府による抑圧を受けてきたイスラーム運動組織を母体とする政治勢力が台頭し、その影響から、文化的諸事象や社会の構造が変化し始めた。こうした動きは文化や社会の「イスラーム化」と呼ばれたが、その後この「イスラーム化」が非難にさらされるようになり、同地域の文化的・社会的状況は再び不安定になっている。</p> <p>こうした一連の状況を念頭に置きつつ、本講義ではまず、イスラームをめぐる近現代史観について検討する。さらに、既存の「西洋近代との遭遇→イスラームの衰退→復興」という図式を乗り越えるべく、近現代におけるムスリム知識人らの生き様や著述を知る。以上の作業を通して、イスラームの近現代史とは何かを考えてみたい。</p> | | |

詳しい情報はこちらで→



民族誌と歴史 ～韓国朝鮮言語社会演習～

Seminar in Ethnography and History

| | | | |
|--|--|------------------|--|
| 科目番号 Course ID Number | 21176553 | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | 本田洋（人文） Hiroshi Honda (Humanities and Sociology) | 場 所 Venue | 赤門総合研究棟 723 演習室 Seminar Room 723, Akamon General Bldg, Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | S semester 水 (Wed) 4 限 (14:55-16:40) | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | 韓国朝鮮社会を社会・文化人類学的な観点から研究する方法について、民族誌的研究手法と歴史人類学・歴史民族誌的な様々な試みを中心に検討する。関連文献の購読と研究発表を併行しておこなう。 | | |

1. ガイダンス
2. 民族誌的方法についてのディスカッション
3. 韓国社会の歴史人類学／歴史民族誌についての概説
4. 文献購読：記憶と記録
5. 文献購読：産業化過程での社会経済的变化
6. 文献購読：コミュニティの歴史人類学
- 7-8. 文献購読：韓国社会の歴史民族誌
9. 修士論文構想発表
- 10-12. 個人研究発表
13. 総括

以上はあくまでも予定で、最終的な日程は受講者との打ち合わせをへて決定する。

詳しい情報はこちらで➡



韓国の社会人類学 ～韓国朝鮮言語社会特殊研究～

| | | | |
|--|---|------------------|--|
| 科目番号 Course ID Number | 21176504 | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | 本田洋（人文） Hiroshi Honda (Humanities and Sociology) | 場 所 Venue | 法文 1 号館 112 教室 Room 112, Law and Letters Building 1, Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | S semester 火 (Mon) 5 限 (16:50-18:35) | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | 外から（日本から）見た韓国と実際にこの社会で暮らすこととの間にはどんな距離があるのか。韓国社会で生きるとはどのようなことなのか。本講義では、韓国社会の生き方について、外からのまなざしにも留意しつつ、当事者の立ち位置・観点からの考察を試みる。1960年代半ばから1990年代初頭までの産業化過程での社会変化を対照事例として、一方で現代社会における生き方の分化と断絶を、他方で流動性を基調とする生き方の歴史的形成を、社会人類学・歴史民族誌的観点から解明する。 | | |

初回にはイントロダクションを、2回目には韓国の産業化過程における社会経済的变化についての概説を行ったうえで、3回目から各論に入る。トピックとしては、産業化過程での流動的生き方の展開、流動性と持続性の均衡を支える社会経済的システムの形成と再生産、産業化後の生き方の分化と葛藤等を取り上げる予定である。

詳しい情報はこちらで➡



分野／社会・文化論（人文社会系研究科） Field : Society and Culture

単位／各 2 Credit : 2

近代アジアの開発と社会変化 (1)(2) ～比較アジア社会文化論演習～

| | | | |
|--|--|------------------|--|
| 科目番号 Course ID Number | 21172811 21172812 | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | 水島司（人文） Tsukasa Mizushima (Humanities and Sociology) | 場 所 Venue | 法文 1 号館 424 教室 Room 424, Law and Letters Building 1, Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | S・A semester 月 (Mon) 4 限 (14:55-16:40) | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | アジア地域に関し、人口動向と農業開発の進展、および、それともなう社会変化に関する一次史料や先行研究を読み、社会変化を説明する方法論や、史料読解について学ぶと共に、歴史地理情報システムを用いた歴史地図の作成方法と歴史空間情報データベースの利用方法を習得する。 出席者は毎回事前に予習をして授業にのぞみ、文献や資料を講読する。 | | |
| 履修上の注意 Notes on Taking the Course | S セメスターの初回開講日は 4 月 17 日。A セメスターの開講日は 10 月 2 日。 1 回の無断欠席および 3 回以上欠席した場合は、単位を認定しない。 | | |

詳しい情報はこちらで→



分野／社会・文化論（人文社会系研究科） Field : Society and Culture

単位／各 2 Credit : 2

グローバル・ヒストリーとアジア (1)(2) ～比較アジア社会文化論演習～

| | | | |
|--|--|------------------|--|
| 科目番号 Course ID Number | 21172861 21172862 | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | 水島司（人文） Tsukasa Mizushima (Humanities and Sociology) | 場 所 Venue | 法文 1 号館 424 教室 Room 424, Law and Letters Building 1, Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | S・A semester 月 (Mon) 5 限 (16:50-18:35) | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | 近代のアジアでは、植民地都市、宗教都市、工業都市が生まれ、成長していった。大きな農村人口を抱えながらも、それらの都市はアジア社会の変容を先導し、グローバル・エコノミーとの一体化を導いた。演習では、南インドの典型的な植民地都市であるマドラス、宗教都市であるカーンチープラム、工業都市であるコインバトールを主に取り上げ、そこでの人口動向、カースト構成の変化、職業構造の変化などを、1871 年以降の人口センサスを史料として、主に GIS（地理情報システム）を手法として分析する。それらの作業を通じて、グローバル・ヒストリーの展開とアジアの都市が近代の歴史の中で果たした役割の意義を考える。 | | |
| 履修上の注意 Notes on Taking the Course | 初回は 4 月 17 日開講とする。A セメスターは 10 月 2 日に開講する。 無断欠席は 1 回、あるいはどういう理由であれ 3 回以上欠席した場合は、単位を認定しない。 | | |

詳しい情報はこちらで→



Advanced Lectures on Sociotechnology

| | | | |
|--|---|------------------|--|
| 科目番号 Course ID Number | 3713071 | 使用言語 Language | 英語 English |
| 担当教員 Teacher | Professor Hideyuki Horii (Engineering) Dr. Shunsaku Komatsuzaki (Engineering) | 場 所 Venue | 工学部 1 号館 17 講義室 Room 17, Faculty of Engineering, Bldg.1 Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | S semester 水 (Wed) 4 限 (14:55-16:40) | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | <p>社会問題およびその解決事例を取り上げ、ケースメソッドによる学習とケースに基づくイノベーションワークショップを通じて、社会技術に関わる知識、問題分析方法・能力、問題解決策立案方法・能力を習得する。学期前半では主にケースメソッドによる学習、後半はイノベーションワークショップを中心とする。</p> <p>Contemporary social problems, such as BSE and the Great East Japan Earthquake, cannot be solved by any single discipline and we must have a competency to manage, or even initiate, multidisciplinary problem solving. Sociotechnology (Shakai-Gijutsu) is a means to solve societal issues by a multidisciplinary approach using natural and social scientific knowledge and methodologies.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Case Method <ol style="list-style-type: none"> 1.1 Brazil Electricity Crisis (Kennedy) 1.2 Hurricane Katrina (A)-(C) (Kennedy) 1.3 Accident at Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Station (UT) 2. Case Analysis and Innovation Workshop | | |
| 履修上の注意 Notes on Taking the Course | <p>Students are expected to learn the abilities and knowledge of Sociotechnology by case method. In the first half of the semester, using orthodox case method, you will learn methods to analyze problem and a logical process to reveal fundamental cause(s). In the second half, you will learn skills to create new idea based on existing cases. The innovation workshop method by the University of Tokyo i.school (http://ischool.t.u-tokyo.ac.jp/) will be employed. You will finally acquire the competency to practice the methods and knowledge of Sociotechnology to solve social problems in the real world.</p> | | |

詳しい情報はこちらで→



Case Studies of International Projects

| | | | |
|--|--|------------------|--|
| 科目番号 Course ID Number | 3713073 | 使用言語 Language | 英語 English |
| 担当教員 Teacher | Professor Hideyuki Horii (Engineering) Professor Hironori Kato (Engineering) Mr. Takashi Kumon (Engineering) Dr. Shunsaku Komatsuzaki (Engineering) Dr. So Morikawa (Engineering) | 場 所 Venue | 工学部 1 号館 17 講義室 Room 17, Faculty of Engineering, Bldg.1 |
| 授業時間 Semester/Time | A semester 水 (Wed) 4 限 (14:55-16:40) | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | <p>国際プロジェクトに関わる事例を取り上げ、ケースメソッドによる学習を通じて、国際プロジェクトに関わる知識、問題分析方法・能力、問題解決策立案方法・能力を習得する。特に、それぞれ専門知識を持った教員の下での学習を行うことによって、各ケースに関わる専門的知識を身につけることも求められる。</p> <p>We civil engineers are involved not only in construction of infrastructure but also in solving a variety of social problems. For example, the Great East Japan Earthquake set a new task to build new embankments along the Sanriku Coast. It is not a purely technical issue but a social one as social acceptance would be necessary to build those embankments. Even experts of structural mechanics cannot avoid or ignore it. The same thing can be said to international project; for example, Kotopanjang Dam project in Indonesia caused a strong public opposition, which was actually evoked by NGO, and ended in court. You, as future civil engineers, must have competencies to deal with such various aspects of international project.</p> <p>Outline of the cases:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Resettlement Problem in Batangas Port Development Project in Philippines (UT) = Prof. Kato 2. The "Miracle" of Kamaishi: The Solution that Achieved the Miracle (UT) = Dr. Komatsuzaki 3. Congestion Pricing for Stockholm (Kennedy) = Prof. Horii 4. Land Acquisition and Involuntary Resettlement in Southern Transport Development Project in Sri Lanka (UT) = Dr. Morikawa 5. Unilever in India: Hindustan Lever's Project Shakti - Marketing FMCG to the Rural Consumer (HBS) = Mr. Kumon | | |
| 履修上の注意 Notes on Taking the Course | <p>Students are expected to learn the skills of problem solving (analysis, evaluation and forecast) and solution design and the professional knowledge of international project through case method in this course. The instructors with different professional back-grounds will give you an opportunity to learn a wide range of expertise to manage and/or initiate international project in future.</p> | | |

詳しい情報はこちらで→



分野／自然環境論（農学生命科学研究科） Field : Natural Environment

単位／2 Credit : 2

アジアの食と農・環境 ～農学国際特論Ⅲ～

Food, agriculture and environment in Asia

| | | | |
|--|--|------------------|---|
| 科目番号 Course ID Number | 3910132 | 使用言語 Language | 英語 English |
| 担当教員 Teacher | 荒木徹也（農学生命科学研究科） Tetsuya Araki (Agricultural and Life Sciences) | 場 所 Venue | 農学部 7 号館 B 棟 7B-231/232 Faculty of Agriculture Bldg no.7B Lecture Room 231/232 |
| 授業時間 Semester/Time | 集中講義 intensive (S1-W) | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | <p>アジアの食料、農業および環境問題の現状と解決策について、俯瞰的な視野を持つとともに、ローカルな現場のリアリティに立脚して検討できるような複眼的な視点を養う。 To acquire multiple viewpoints for tackling the problems of agriculture and environment against the reality at the local as well as global scales.</p> <p>(1) June 17, 2017: Adaptation to Climatic Changes in the Mekong Delta Lecturer: Prof. Nguyen Duy Can (Cantho University, Vietnam)</p> <p>(2) September 23, 2017: Biomass and Bioenergy Utilization in Indonesia and Asia Lecturer: Prof. Armansyah H. Tambunan (Bogor Agricultural University, Indonesia)</p> <p>(3) October 21, 2017: Application of Science and Local Knowledge in Climate Risk Reduction Lecturer: Prof. Juan M. Pulhin (UPLB, The Philippines)</p> <p>(4) December 16, 2017: Environmental Footprint of Food Production Systems Lecturer: Dr. Mark Lieffering (AgResearch, New Zealand)</p> <p>(5) February 17, 2018: Air Pollution and Its Ecological Impacts in Asia Lecturer: Prof. Feng Zhaozhong (Chinese Academy of Sciences, China)</p> <p>Coordinators: Tetsuya Araki (2), Kazuhiko Kobayashi (1, 3, 4, 5)</p> | | |
| 履修上の注意 Notes on Taking the Course | 幹事教員：荒木徹也、小林和彦、岡田謙介 | | |

詳しい情報はこちらで→



分野／自然環境論（農学生命科学研究科） Field : Natural Environment

単位／2 Credit : 2

サステナビリティ学特論 ～食料生産生態学特別講義～

Sustainability Science Special Course - Food Production Ecology Special Lecture -

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|------------------|--|---------------------|---|------------------------|---|------------------------|---|----------------------|---|---------------------|--|------------------------|--|----------------------------|--|
| 科目番号 Course ID Number | 3910323 | 使用言語 Language | 英語 English | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員 Teacher | 鴨下顕彦（アジア生物資源環境研究センター） Akihiko Kamoshita (ANESC) | 場 所 Venue | 西東京キャンパス（変更の可能性あり） Nishitokyo campus (can be changed) | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業時間 Semester/Time | 集中講義 intensive (A1-SP) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | <p>持続可能な開発、平和構築のために、作物生産学はどのような貢献ができるのだろうか？ 世界の稲作の多様性や技術的な課題について学び、ステークホルダー解析などの参加型演習を交えながら、持続可能な開発と食料生産の関連性を主体的に考えながら学ぶ。途上国を含む世界の作物生産に関する基礎知識や複眼的な見方を習得する。 What can crop production science contribute to sustainable development and peace-making? Based on the basic and advanced learning of diversity of rice ecosystem and challenges for rice production technology, learn and discuss relationship between food production and sustainable development, including participatory practice such as stakeholder analysis. Students should aim to demonstrate basic knowledge and multiple viewpoints about world crop production including developing countries.</p> <table border="0"> <tr> <td>ユニット 1 持続可能な農業と稲生態系</td> <td>Unit 1 Sustainable agriculture and rice ecosystem</td> </tr> <tr> <td>ユニット 2 緑の革命とその後の稲作技術開発</td> <td>Unit 2 Green revolution and subsequent rice production technology development</td> </tr> <tr> <td>ユニット 3 天水農業とステークホルダー解析</td> <td>Unit 3 Rainfed agriculture and stakeholder analysis</td> </tr> <tr> <td>ユニット 4 気象変動とデルタ地域の稲作</td> <td>Unit 4 Climate change and delta rice production</td> </tr> <tr> <td>ユニット 5 作物のストレス耐性の改良</td> <td>Unit 5 Improvement of crop stress resistance</td> </tr> <tr> <td>ユニット 6 バイオテクノロジーと参加型開発</td> <td>Unit 6 Biotechnology and participatory development</td> </tr> <tr> <td>ユニット 7 科学者の役割と持続可能な開発・平和構築</td> <td>Unit 7 Role of scientist in crop production and sustainable development/peace-making</td> </tr> </table> | | | ユニット 1 持続可能な農業と稲生態系 | Unit 1 Sustainable agriculture and rice ecosystem | ユニット 2 緑の革命とその後の稲作技術開発 | Unit 2 Green revolution and subsequent rice production technology development | ユニット 3 天水農業とステークホルダー解析 | Unit 3 Rainfed agriculture and stakeholder analysis | ユニット 4 気象変動とデルタ地域の稲作 | Unit 4 Climate change and delta rice production | ユニット 5 作物のストレス耐性の改良 | Unit 5 Improvement of crop stress resistance | ユニット 6 バイオテクノロジーと参加型開発 | Unit 6 Biotechnology and participatory development | ユニット 7 科学者の役割と持続可能な開発・平和構築 | Unit 7 Role of scientist in crop production and sustainable development/peace-making |
| ユニット 1 持続可能な農業と稲生態系 | Unit 1 Sustainable agriculture and rice ecosystem | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ユニット 2 緑の革命とその後の稲作技術開発 | Unit 2 Green revolution and subsequent rice production technology development | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ユニット 3 天水農業とステークホルダー解析 | Unit 3 Rainfed agriculture and stakeholder analysis | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ユニット 4 気象変動とデルタ地域の稲作 | Unit 4 Climate change and delta rice production | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ユニット 5 作物のストレス耐性の改良 | Unit 5 Improvement of crop stress resistance | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ユニット 6 バイオテクノロジーと参加型開発 | Unit 6 Biotechnology and participatory development | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ユニット 7 科学者の役割と持続可能な開発・平和構築 | Unit 7 Role of scientist in crop production and sustainable development/peace-making | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修上の注意 Notes on Taking the Course | <p>UT-mate にメールアドレスを登録し、akamoshita@anesc.u-tokyo.ac.jp へメールを送ること。事前テストを送るので、第 1 回講義までに回答すること。 Register your mail address in UT-mate, and e-mail to akamoshita@anesc.u-tokyo.ac.jp. Pre-test is to be sent to the registered students, and it is to be answered before the first lecture.</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

詳しい情報はこちらで→



農業から見たアジア史 ～農業史特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ～

History of Asian Agriculturure

| | | | |
|--|---|------------------|--|
| 科目番号 Course ID Number | 3905188 3905189 3905190 3905191 | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | 松本武祝、戸石七生（農学生命科学研究科） Takenori Matsumoto(Agricultural and Life Sciences) Nanami Toishi (Agricultural and Life Sciences) | 場 所 Venue | 農学部 1 号館 309-1 Faculty of Agriculture Bld. No1, 309-1 |
| 授業時間 Semester/Time | S1S2 A1A2 金 (Fri) 3 限 (13:00-14:45) | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | 日本・インドを中心としたアジアの歴史を、農業を尺度に長期的な視野から理解することを目的とする。その際、比較史的アプローチを用いる。 S1S2 セメスターは、石川博樹・小松かおり・藤本武『食と農のアフリカ史』昭和堂 2016、篠田隆『インド農村の家畜経済長期変動分析』日本評論社 2015 を輪読する。 | | |
| 履修上の注意 Notes on Taking the Course | 履修の際の専門性は問わないが、日本史や世界史一般については高校の教科書、農業経済や農業史については基礎的なテキストの内容（岩波書店『農業経済学』、『日本の農業 150 年 :1850～2000 年』編 有斐閣）について知識があることを前提とする。 | | |

詳しい情報はこちらで→



国際地域保健学特論Ⅰ

Special Lecture in Community Health I

| | | | |
|--|--|------------------|--|
| 科目番号 Course ID Number | 41722121 | 使用言語 Language | 英語 English |
| 担当教員 Teacher | 神馬征峰（医学系研究科） Masamine Jimba (Medicine) | 場 所 Venue | 医学部 3 号館 S101（変更の可能性あり） Medical Bilding 3, S101 (Subject to change) Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | S1 term 金 (Fri) 3-4 限 (13:00-14:45, 14:55-16:40) | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | 本特論では、参加者はコミュニティに着目したグローバルヘルスの基礎となる重要な概念を理解した後に、研究および実践における方法論について学んでいく。 <ol style="list-style-type: none"> 1. Key concepts of community health action <ol style="list-style-type: none"> a. Health, community, and global health b. Community development and sustainability c. Primary health care d. Health promotion e. Positive deviance approach f. Health education and behavioral change g. Community health workers h. Human rights 2. Tools for community health action and research <ol style="list-style-type: none"> a. Qualitative research methods b. Community health assessment c. Hard-to-reach population research methods d. Program and project management and evaluation e. Medical anthropology | | |
| 履修上の注意 Notes on Taking the Course | 授業開始日は 4 月 14 日（金） 受講希望者は事前に柴沼助教 shibanuma@m.u-tokyo.ac.jp へ連絡して下さい。 | | |

詳しい情報はこちらで→



分野／健康論（医学系研究科） Field : Health Sciences

単位／2 Credit : 2

人類生態学特論 I

Special Lecture in Human Ecology I

| | | | |
|--|---|------------------|---|
| 科目番号 Course ID Number | 41722231 | 使用言語 Language | 英語 English |
| 担当教員 Teacher | 渡辺知保（医）、梅崎昌裕（医） Chiho Watanabe (International Health), Masahiro Umezaki (International Health) | 場 所 Venue | 医学部 3 号館別棟 6 階 E604 Medical Building 3 Annex, E604 Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | S1 term 金 (Fri) 1-2 限 (8:30-10:15, 10:25-12:10) | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | 人類生態学 (human ecology) は、人間集団とその環境との相互作用について記述し、適応 (adaptation) という観点から、それを解析する科学である。この講義では、人類生態学の基礎的な概念と方法を解説する。人類生態学でカバーすべき領域は大変に広いが、人口・栄養・生業・疾病・環境を中心に議論する。 | | |
| 履修上の注意 Notes on Taking the Course | 開始日は 4 月 14 日 (金) Starting Date: April 14th (Fri) | | |

詳しい情報はこちらで→



分野／健康論（医学系研究科） Field : Health Sciences

単位／2 Credit : 2

医療コミュニケーション学講義

Health Communication Lecture

| | | | |
|--|--|------------------|---|
| 科目番号 Course ID Number | 41718120 | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | 石川ひろの (医) Hirono Ishikawa (Medicine) | 場 所 Venue | 医学部教育研究棟 13 階公共健康医学専攻 (SPH) 講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | S1 term 火 (Tue) 3-4 限 (13:00-14:45, 14:55-16:40) | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | <p>本講義の目的は、医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）の理論と実践を体系的に学習することにある。医療コミュニケーション学（ヘルスコミュニケーション学）とは、医療・公衆衛生分野を対象としたコミュニケーション学であり、保健医療専門職間、保健医療専門職と患者・市民間、患者・市民間等における健康や医療に関連した知識や情報などのコミュニケーションを対象とする。本講義では、保健医療・公衆衛生分野における専門職として効果的なコミュニケーションを実践するために必要な、(1) コミュニケーションの基本的な理論、(2) コミュニケーションの具体的な方略やスキル、(3) コミュニケーションの評価・分析方法等を取り扱う。本講義の受講によって、医療コミュニケーションを実践し、改善していくために必要な基礎的な知識を得ることができる。</p> | | |
| | <p>4 月 11 日 3 限 医療コミュニケーション学概論 (石川ひろの) 4 月 11 日 4 限 保健医療専門職の教育、コミュニケーションスキルの教育と評価 (石川ひろの) 4 月 18 日 3 限 ヘルス・コミュニケーションの方略① 個人の行動変容を促すコミュニケーション (石川雄一 [日本ヘルスサイエンスセンター]) 4 月 18 日 4 限 患者・市民の教育 賢い患者・市民を育てる試み (山口育子 [COML]) 4 月 25 日 3 限 グループ・組織のコミュニケーション グループダイナミクスとリーダーシップ (石川ひろの) 4 月 25 日 4 限 ヘルス・コミュニケーションの方略② 行動変容を促す保健医療文書の作り方 (奥原剛) 5 月 9 日 3 限 ヘルス・コミュニケーションの方略③ 集団の行動変容を促すコミュニケーション (石川善樹 [キャンサースキャン]) 5 月 9 日 4 限 政策形成とアドボカシーのコミュニケーション アドボカシーの概念と人材育成 (神馬征峰 [国際地域保健学]) 5 月 16 日 3 限 メディア・コミュニケーション①: テレビ (市川衛 [NHK]) 5 月 16 日 4 限 ヘルス・コミュニケーションの方略④ エンターテイメント・エデュケーション (加藤美生) 5 月 23 日 3 限 メディア・コミュニケーション②: 新聞 (本田麻由美 [読売新聞]) 5 月 23 日 4 限 ヘルス・コミュニケーションの研究 コミュニケーションの分析と実証研究 (石川ひろの) 5 月 30 日 3 限 メディア・コミュニケーション③: インターネット (中山和弘 [聖路加国際大学]) 5 月 30 日 4 限 まとめ: グループ討論と総合討論 (石川ひろの、加藤美生、奥原剛)</p> | | |

詳しい情報はこちらで→



医療コミュニケーション学演習

Health Communication Practice

| | | | |
|--|---|------------------|--|
| 科目番号 Course ID Number | 41718122 | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | 石川ひろの（医）、岡田昌史（医） Hirono Ishikawa (Medicine), Masafumi Okada (Medicine) | 場 所 Venue | 医学部教育研究棟 13 階公共健康医学専攻（SPH）講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | S2 term 水（Wed）3-4 限（13:00-14:45, 14:55-16:40） | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | <p>効果的な医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）を行うために必要なスキルを、対人コミュニケーション、メディアを通じたコミュニケーションそれぞれ具体的に取り上げ、演習を行うことによって、「医療コミュニケーション学」の講義で学んだ理論や方略に対する理解を深めるとともに、具体的な医療コミュニケーションの場（医療機関、官公庁、教育機関、研究機関、患者支援組織、マスコミ等）でこれらを生かすことができるようにすることを目的とする。</p> | | |

- 6月 7日 文書によるコミュニケーション
行動変容を促す保健医療文書を作る（石川ひろの、奥原剛）
- 6月 14日 インターネットによる情報発信
インターネット演習（1）（石川ひろの、岡田昌史）
- 6月 21日 自分を知る・相手を知る
MBTI（Myers-Briggs Type Indicator）演習（1）（園田由紀【日本 MBTI 協会】）
- 6月 28日 自分を知る・相手を知る
MBTI 演習（2）（園田由紀）
- 7月 5日 自分を知る・相手を知る
MBTI 演習（3）（園田由紀）
- 7月 12日 メディア報道のあり方を考える
メディアドクター演習（渡邊清高【帝京大学】）
- 7月 19日 行動変容を支援するスキル
コーチング演習（田口智博【三重大学】）
- 7月 26日 インターネットによる情報発信
インターネット演習（2）（石川ひろの、岡田昌史）

詳しい情報はこちらで→

履修上の注意
Notes on Taking the Course

第2回と最終回はノートパソコンを持参のこと。演習への参加（50%）、演習内でのプレゼンテーション（20%）、作成した資料・レポート（30%）によって評価する。演習への参加が前提となるため、やむを得ず欠席する場合には、事前に事情を届け出ること。

精神保健学特論 I

Special Lecture in Mental Health I

| | | | |
|--|---|------------------|--|
| 科目番号 Course ID Number | 41721121 | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | 川上憲人（医） Norito Kawakami (Medicine) | 場 所 Venue | 医学部教育研究棟 13 階公共健康医学専攻（SPH）講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | S semester 火（Tue）5 限（16:50-18:35） | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | <p>精神保健の疫学を理解し、効果的な第一次、第二次、第三次予防対策を立案することができるようになるために、精神保健疫学の基礎および精神保健対策の科学的根拠を学ぶと同時に、事例研究（ケーススタディ）を通じて基礎的かつ実践的な能力を身につけることを目的とする。</p> | | |

- 4月 11日 1) オリエンテーション、総論（川上）
- 4月 18日 2) 精神疾患の疫学（川上）
- 4月 25日 3) 精神健康の評価（川上）
- 5月 2日 4) 第一次予防と心理社会的支援（宮本、今村）
- 5月 9日 5) 精神健康のスクリーニング（川上）
- 5月 16日 6) 精神保健のサービス利用（川上）
- 5月 23日 7) 課題発表1：科学的根拠に基づく精神保健対策
- 6月 6日 8) トピックス①：自殺予防対策はどう進める（外部講師）
- 6月 13日 9) トピックス②：薬物使用は犯罪か病気か（外部講師）
- 6月 20日 10) トピックス③：精神保健行政の現状と課題（外部講師）
- 7月 4日 11) トピックス④：災害時の精神保健（金）
- 7月 18日 12,13) 課題発表2：精神保健対策を立案する（5, 6 限）

履修上の注意
Notes on Taking the Course

最終回のみ授業時間が 16:50-20:30 となるので注意すること。
講義を担当する教員は川上憲人、今村幸太郎、宮本有紀、金吉晴（連携教授）、外部講師

詳しい情報はこちらで→



分野／健康論（医学系研究科） Field : Health Sciences

単位／2 Credit : 2

精神保健学特論 II

Special Lecture in Mental Health II

| | | | |
|--|---|------------------|--|
| 科目番号 Course ID Number | 41721122 | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | 川上憲人（医）、非常勤講師 Norito Kawakami (Medicine) | 場 所 Venue | 医学部教育研究棟 13 階公共健康医学専攻（SPH）講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | A semester 火（Tue）5 限（16:50-18:35） | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | <p>職場のメンタルヘルスの専門職として必要とされる知識・技術を、講義および事例研究とその後の討論によって習得することを目的とする。具体的には、制度・法規、利用者の状態および特性を踏まえた対応、関連職種間の連携、近年の社会経済情勢を踏まえた対策について学び、具体的な対策を現場で進めることのできる能力を養成する。</p> <p>10月 3日 コース概要、産業精神保健総論 10月 10日 産業保健マネジメントの中でのメンタルヘルス対策 10月 17日 メンタル不調者対応の基本的な枠組み・専門職が留意すべきこと 10月 24日 外部 EAP によるメンタルヘルス支援 10月 31日 組織・個人の活性化とポジティブメンタルヘルス 11月 7日 職場のいじめとメンタルヘルス 11月 14日 経営と産業保健は協調できるか？ 11月 21日 腰痛とメンタルヘルス 11月 28日 ワーク・ライフ・バランスとメンタルヘルス 12月 5日 労働者の復職支援プログラム 12月 12日 中小規模事業所のメンタルヘルス対策 12月 19日 人事からみたメンタルヘルス対策 1月 9日 海外勤務者のメンタルヘルス支援 1月 16日 これからの職場のメンタルヘルス</p> | | |

履修上の注意
Notes on Taking the Course

精神保健学と対策の基礎について学ぶ「精神保健学 I」を受講していることが望ましい。

詳しい情報はこちらで→



分野／健康論（医学系研究科） Field : Health Sciences

単位／2 Credit : 2

健康社会学

Health Sociology

| | | | |
|--|---|------------------|--|
| 科目番号 Course ID Number | 41718214 | 使用言語 Language | 英語 English |
| 担当教員 Teacher | 橋本英樹（医） Hideki Hashimoto (Medicine) | 場 所 Venue | 医学部教育研究棟 13 階公共健康医学専攻（SPH）講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | A1 term 金（Fri）1-2 限（8:30-10:15, 10:25-12:10） | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | <p>社会学を基本軸として、健康を社会的文脈で考察する知的基盤を提供する。具体的には社会学理論を鳥瞰したうえで、健康科学との接点として医療・医師・社会的健康決定要因などを題材として取り扱う。 Will provide sociological theory basis to consider health in social context rather than in bio-medical frame.</p> <p>9月 29日 1) 1 限 Perspective of sociology and health sociology（橋本） 9月 29日 2) 2 限 Medicine as social system/power politics（橋本） 10月 6日 3) 1 限 Social stratification and health（橋本） 10月 6日 4) 2 限 Social relationship and health（杉澤） 10月 13日 5) 1 限 medicalization and gaze（橋本） 10月 13日 6) 2 限 sociology of community applied to health（高木） 10月 20日 7) 1 限 complementary/alternative healthcare（中山） 10月 20日 8) 2 限 Sociology of school health（朝倉） 10月 27日 公衆衛生学会のため休講 11月 10日 9) 1 限 Lay epidemiology, illness behavior（橋本） 11月 10日 10) 2 限 sociology of health promotion（橋本） 11月 17日 11) 1 限 world of medicine and chronic illness（橋本）</p> | | |

履修上の注意
Notes on Taking the Course

講義を担当する教員は、橋本英樹、高木大資、杉澤秀博（桜美林大学）、朝倉隆司（学芸大学）、中山和弘（聖路加看護大学）。積極的発言・参加を高く評価する。講義中以外（休み時間）の質問は原則受け付けない。

詳しい情報はこちらで→



健康教育学

Health Education

| | | | |
|--|---|------------------|--|
| 科目番号 Course ID Number | 41718213 | 使用言語 Language | 英語 English |
| 担当教員 Teacher | 橋本英樹（医） Hideki Hashimoto (Medicine) | 場 所 Venue | 医学部教育研究棟 13 階公共健康医学専攻（SPH）講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | A2 term 金（Fri）1-2 限（8:30-10:15, 10:25-12:10） | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | 生活習慣・健康行動変容に関する理論を講義でまず鳥瞰した後、各理論のフレームを用いて実践的プログラム立案を行う上での長所・短所・限界点をクラス内ディスカッション・レポートで深める。 | | |
| | 11月24日 1) 1限 Micro-meso level of behavioral theories（橋本） 11月24日 2) 2限 Population level of behavioral theories（橋本） 12月1日 3) 1限 Micro-meso level of theories applied（橋本） 12月1日 4) 2限 Macro level theories applied（橋本） 12月8日 5) 1限 Empowerment approach in community I（岩永） 12月8日 6) 2限 Empowerment approach in community II（岩永） 12月15日 7) 1限 Health marketing in workplace I（戸津崎） 12月15日 8) 2限 Health marketing in workplace II（戸津崎） 1月12日 9) 1限 Health literacy and ethics of behavioral modification（橋本） 1月12日 10) 2限 Public intervention for community health（馬場） 1月19日 11) 1限 wrap-up discussion | | |
| 履修上の注意 Notes on Taking the Course | 講義を担当する教員は、橋本英樹、岩永俊博（ヘルスプロモーション研究センター）、戸津崎貴文（みずほ銀行）、馬場優子（足立区健康づくり課）。積極的発言・参加を高く評価する。講義中以外（休み時間）の質問は原則受け付けない。 | | |

詳しい情報はこちらで→



Information, Technology, and Society in Asia 124:

International Conflict Study

| | | | |
|--|--|------------------|---|
| 科目番号 Course ID Number | 4971240 | 使用言語 Language | 英語 English |
| 担当教員 Teacher | 藤原帰一（法学政治学研究科） Kiichi Fujiwara (Graduate Schools for Law and Politics) | 場 所 Venue | 法文 1 号館 3 階・第 26 番教室 Room 26, 3rd floor, Faculty of Law and Letters Bldg.1, Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | S semester 火（Tue）2 限（10:25-12:10） | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | 詳細は UT-mate および ASNET ウェブページをご覧ください。 Please check UT-mate or ASNET webpage for detail. (https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1784) | | |

詳しい情報はこちらで→



分野／情報論 (学際情報学府) Field : Information Theory

単位／2 Credit : 2

Information, Technology, and Society in Asia 131:
Modern Japanese Diplomacy

| | | | |
|--|--|------------------|---|
| 科目番号 Course ID Number | 4971310 | 使用言語 Language | 英語 English |
| 担当教員 Teacher | 小原雅博 (総合法政専攻) Kohara Masahiro | 場 所 Venue | 法文 1 号館 3 階・第 26 番教室 Room 26, 3rd floor, Faculty of Law and Letters Bldg.1, Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | S semester 金 (Fri) 1 限 (8:30-10:15) | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | 詳細は UT-mate および ASNET ウェブページをご覧ください。 Please check UT-mate or ASNET webpage for detail. (https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1785) | | |

詳しい情報はこちらで⇒



分野／情報論 (学際情報学府) Field : Information Theory

単位／2 Credit : 2

Information, Technology, and Society in Asia 101:
Introduction to Asian Studies: History and International Relations

| | | | |
|--|--|------------------|---|
| 科目番号 Course ID Number | 4971010 | 使用言語 Language | 英語 English |
| 担当教員 Teacher | 松田康博 (東文研) Yasuhiro Matsuda (Advanced Studies on Asia) | 場 所 Venue | 東洋文化研究所三階大会議室 Main Meeting Room, 3rd floor, Institute for advanced Studies on Asia, Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | A1 term 火・金 (Tue & Fri) 5 限 (16:50-18:35) | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | 詳細は UT-mate および ASNET ウェブページをご覧ください。 Please check UT-mate or ASNET webpage for detail. (https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1786) | | |

詳しい情報はこちらで⇒



分野／情報論 (学際情報学府) Field : Information Theory

単位／2 Credit : 2

Information, Technology, and Society in Asia 128:
Surviving Cancer in Asia

| | | | |
|--|--|------------------|---|
| 科目番号 Course ID Number | 4971280 | 使用言語 Language | 英語 English |
| 担当教員 Teacher | 赤座英之 (情報学環)、河原ノリエ (情報学環) Hideyuki Akaza (Interfaculty Initiative in Information Studies) Norie Kawahara (Interfaculty Initiative in Information Studies) | 場 所 Venue | 医学部教育研究棟 第 1 セミナー室 Seminar Room 1, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | A semester 月 (Mon) 4 限 (14:55-16:40) | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | This lecture series will be held in an omnibus style, with external lecturers being invited to talk about cancer in Asia from their various expert perspectives. The lecturers will delve into issues such as the characteristics of cancer in Asia and the various approaches for regional cooperation that will help to overcome it, examining the current status in the Asian region and the various challenges that are currently being faced. | | |

詳細は UT-mate および ASNET ウェブページをご覧ください。
Please check UT-mate or ASNET webpage for detail.
(<https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1787>)

詳しい情報はこちらで⇒



Information, Technology, and Society in Asia 133:

Japanese Foreign Economic Policy

| | | | |
|--|--|------------------|--|
| 科目番号 Course ID Number | 4971330 | 使用言語 Language | 英語 English |
| 担当教員 Teacher | 飯田敬輔（総合法政専攻） Keisuke Iida | 場 所 Venue | 法文 1 号館 B1 演習室 Seminar Room B1, Faculty of Law and Letters Bldg.1, Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | A semester 水（Wed）4, 5 限（14:55-16:40, 16:50-18:35） | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | 詳細は UT-mate および ASNET ウェブページをご覧ください。 Please check UT-mate or ASNET webpage for detail. (https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1788) | | |

詳しい情報はこちらで⇒



Information, Technology, and Society in Asia 129:

Japan in Hong Kong

| | | | |
|--|--|------------------|---------------|
| 科目番号 Course ID Number | 4971290 | 使用言語 Language | 英語 English |
| 担当教員 Teacher | 園田茂人（情報学環） Sonoda Shigeto (Interfaculty Initiative in Information Studies) | 場 所 Venue | TBA |
| 授業時間 Semester/Time | 集中講義 intensive (S2 term) | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | 詳細は UT-mate および ASNET ウェブページをご覧ください。 Please check UT-mate or ASNET webpage for detail. (https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1789) | | |

詳しい情報はこちらで⇒



文化・人間情報学特論 I

Special Seminars in Cultural and Human Information I

| | | | |
|--|--|------------------|-----------------|
| 科目番号 Course ID Number | 4917030 | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | 真鍋祐子（東洋文化研究所） Yuko Manabe (Advanced Studies on Asia) | 場 所 Venue | TBA |
| 授業時間 Semester/Time | A semester 金（Fri）2 限（10:25-12:10） | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | 詳細は UT-mate および ASNET ウェブページをご覧ください。 Please check UT-mate or ASNET webpage for detail. (https://asnet-utokyo.jp/education/graduate/course/1790) | | |

詳しい情報はこちらで⇒



分野／特論 Field : Advanced Studies

単位／各 2 Credit : 2

東アジア産業論 I・II ～国際経済特論～

| | | | |
|--|--|------------------|---|
| 科目番号 Course ID Number | 291327-07 291327-08 | 使用言語 Language | 日本語、英語 Japanese, English |
| 担当教員 Teacher | 丸川知雄 (社会科学研究所) Tomoo Marukawa (ISS) | 場 所 Venue | 赤門総合研究棟 1 階 第 7 演習室 Seminar Room No.7, 1F, Akamon General Building, Hongo Campus |
| 授業時間 Semester/Time | S・A semester 水 (Wed) 3 限 (13:00-14:45) | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | この授業では東アジアの産業に関する実証的分析方法を学ぶことを目的とする。中国、韓国、台湾、日本の製造業や第 3 次産業に関する実証分析を輪読しながら東アジアの産業の実態と分析手法を学んでいく。 The purpose of this course is to learn empirical methods of analyzing East Asian industries. Through reading empirical studies on manufacturing and service industries of China, Korea, Taiwan, South East Asia, and Japan, we will learn the realities of East Asian industries and grasp the skills to analyze them. | | |
| 履修上の注意 Notes on Taking the Course | 使用言語は日本語もしくは英語とする。どちらを用いるかは参加者の状況を見て決める。 The language used in class will either be English or Japanese, depending on the participants' language abilities. | | |

詳しい情報はこちらで→



注意①：正規課程とプログラム履修の関係について

NOTE 1 : Standard curriculum and taking part in the program

本プログラムの修了は正規課程の修了とは独立に認定します。したがって、本プログラムにおいて「他研究科（教育部）履修」、「学部科目履修」として取得した単位を、所属する研究科・教育部が正規課程の単位としてどのように取り扱うかは、当該研究科・教育部が決定します。

Recognition of completion of the program is independent of that for completion of the standard curriculum. Therefore, decisions regarding treatment as credit of units gained in this program from "Other graduate school (educational department) enrolment" or "Undergraduate course enrolment" vis-a-vis the standard curriculum of the graduate school or faculty to which the student belongs shall be determined by that graduate school or faculty.

注意②：修士課程から博士課程に進学した時の扱い

NOTE 2 : Treatment of credits when moving from a master's to a doctoral program

修士課程または博士課程在学中に 12 単位を修得した場合だけでなく、東京大学の修士課程から博士課程へ進学した学生は、両課程を通して 12 単位を取得することで修了と認定されます。ただし、東京大学の学部において言語科目群に該当する単位を取得して、大学院に進学した場合においては、学部在籍中に取得した単位を本プログラムの単位とみなすことは出来ません。

For students who gained 12 credits during the term of a master's or doctoral program, or for students at the University of Tokyo who have moved from a master's to a doctoral program, recognition of completion shall be given for 12 credits gained during both courses. However, for students who gained credits for language-related courses at a University of Tokyo undergraduate faculty and moved on to the graduate level, the credits gained by such students while enrolled in that department may not be used as credits in this program.

注意③：平成 18 年度～ 20 年度の「日本・アジア学講座」との関係

NOTE 3 : Regarding 2006 ~ 2008 Lectures on Japan-Asian Studies

平成 18 年度～ 20 年度の期間に「日本・アジア学講座」として開講された科目のうち、作業委員会が特別に認めた場合には修了要件の単位とすることができます。

If the Managing Committee gives special permission, credits gained from those subjects taught during the Japan-Asian Studies Lectures held between 2006 and 2008 may be counted as credits.

言語科目群

Asian Language Courses

事前に必ず、履修に当たっての注意（履修者の制限など）を、ウェブサイトならびに UT-mate 上で確認してください。
 どちらのキャンパス（本郷・駒場）の科目でも履修可能ですが、学部学生の履修状況によっては、受講できない場合もあります。

For detailed information in English, please visit the website.

<https://asnet-utokyo.jp/>

本郷キャンパス【文学部開講科目】

Hongo Campus (Faculty of Letters)

| 科目名 | 科目番号 | 担当教員 | 学期 | 単位 | 科目名 | 科目番号 | 担当教員 | 学期 | 単位 |
|-------------|----------|--------|------|----|-----------|----------|--------|------|----|
| 中国語前期 (1) | 04176401 | 邵 迎建 | S1S2 | 2 | 韓国朝鮮語中級 | 04176441 | 五十嵐 孔一 | S1S2 | 2 |
| 中国語前期 (2) | 04176402 | 邵 迎建 | A1A2 | 2 | アラビア語 (1) | 04176442 | 榮谷 温子 | S1S2 | 2 |
| 中国語後期 (1) | 04176403 | 邵 迎建 | S1S2 | 2 | アラビア語 (2) | 04176443 | 榮谷 温子 | A1A2 | 2 |
| 中国語後期 (2) | 04176404 | 邵 迎建 | A1A2 | 2 | ペルシア語 (1) | 04176444 | 渡部 良子 | S1S2 | 2 |
| ヒンディー語 (1) | 04176437 | 橋本 泰元 | S1S2 | 2 | ペルシア語 (2) | 04176445 | 渡部 良子 | A1A2 | 2 |
| ヒンディー語 (2) | 04176438 | 橋本 泰元 | A1A2 | 2 | チベット語 (1) | 04176452 | 星 泉 | S1S2 | 2 |
| 韓国朝鮮語初級 (1) | 04176439 | 五十嵐 孔一 | S1S2 | 2 | チベット語 (2) | 04176453 | 福田 洋一 | A1A2 | 2 |
| 韓国朝鮮語初級 (2) | 04176440 | 五十嵐 孔一 | A1A2 | 2 | | | | | |

駒場キャンパス【教養学部開講科目】

Komaba Campus (College of Arts and Sciences)

| 科目名 | 科目番号 | 担当教員 | 学期 | 単位 | 科目名 | 科目番号 | 担当教員 | 学期 | 単位 |
|-----------------------------|---------|--------|------|----|-----------------------------|---------|------------|------|----|
| 共通中国語 (19) (中級読解) | 08A4019 | 秋山 珠子 | S1S2 | 2 | 共通中国語 (44) (後期 TLP 上級作文) | 08A4044 | 王 前 | S1S2 | 2 |
| 共通中国語 (20) (中級読解) | 08A4020 | 秋山 珠子 | A1A2 | 2 | 共通中国語 (45) (後期 TLP 上級会話) | 08A4045 | 藤原 優美 | S1S2 | 2 |
| 共通中国語 (21) (中級会話) (PEAK 中級) | 08A4021 | 李 雲 | S1S2 | 2 | 共通中国語 (46) (TLP 中級読解) | 08A4046 | 王 前 | A1A2 | 2 |
| 共通中国語 (22) (中級会話) (PEAK 中級) | 08A4022 | 李 雲 | A1A2 | 2 | 共通中国語 (47) (TLP 中級作文) | 08A4047 | 王 前 | A1A2 | 2 |
| 共通中国語 (23) (中級会話) | 08A4023 | 劉 岸麗 | A1A2 | 2 | 共通中国語 (48) (TLP 中級会話) | 08A4048 | 藤原 優美 | A1A2 | 2 |
| 共通中国語 (24) (中級会話) | 08A4024 | 毛 興華 | A1A2 | 2 | 共通韓国朝鮮語 (11) (文法) | 08A8011 | 金 亨貞 | S1S2 | 2 |
| 共通中国語 (25) (中級作文) | 08A4025 | 柴 森 | S1S2 | 2 | 共通韓国朝鮮語 (12) (文法) | 08A8012 | 金 亨貞 | A1A2 | 2 |
| 共通中国語 (26) (中級作文) | 08A4026 | 柴 森 | A1A2 | 2 | 共通韓国朝鮮語 (13) (作文) | 08A8013 | 金 亨貞 | S1S2 | 2 |
| 共通中国語 (27) (中級読解) | 08A4027 | 村田 雄二郎 | S1S2 | 2 | 共通韓国朝鮮語 (14) (作文) | 08A8014 | 未定 | A1A2 | 2 |
| 共通中国語 (28) (中級読解) | 08A4028 | 伊藤 博 | A1A2 | 2 | 共通韓国朝鮮語 (15) (会話) (PEAK 中級) | 08A8015 | 張 銀英 | S1S2 | 2 |
| 共通中国語 (29) (上級会話) | 08A4029 | 賈 黎黎 | S1S2 | 2 | 共通韓国朝鮮語 (16) (会話) (PEAK 中級) | 08A8016 | 張 銀英 | A1A2 | 2 |
| 共通中国語 (30) (上級会話) | 08A4030 | 賈 黎黎 | A1A2 | 2 | 共通韓国朝鮮語 (17) (精読) | 08A8017 | 橋本 繁 | S1S2 | 2 |
| 共通中国語 (31) (上級作文) | 08A4031 | 毛 興華 | S1S2 | 2 | 共通韓国朝鮮語 (18) (精読) | 08A8018 | 橋本 繁 | A1A2 | 2 |
| 共通中国語 (32) (上級作文) | 08A4032 | 毛 興華 | A1A2 | 2 | 共通韓国朝鮮語 (19) (表現練習) | 08A8019 | ジ ミンギョン | S1S2 | 2 |
| 共通中国語 (33) (上級読解) | 08A4033 | 刈間 文俊 | S1S2 | 2 | 共通韓国朝鮮語 (20) (表現練習) | 08A8020 | 三ツ井 崇 | A1A2 | 2 |
| 共通中国語 (34) (上級読解) | 08A4034 | 林 少陽 | S1S2 | 2 | 共通韓国朝鮮語 (23) (PEAK 初級) | 08A8023 | 張 銀英 | S1S2 | 2 |
| 共通中国語 (35) (上級読解) | 08A4035 | 石井 剛 | A1A2 | 2 | 共通韓国朝鮮語 (24) (PEAK 初級) | 08A8024 | 張 銀英 | S1S2 | 2 |
| 共通中国語 (36) (上級読解) | 08A4036 | 村田 雄二郎 | A1A2 | 2 | 共通アラビア語 (11) | 08A9011 | 濱田 聖子 | S1S2 | 2 |
| 共通中国語 (40) (PEAK 初級) | 08A4040 | 張 玉萍 | S1S2 | 2 | 共通アラビア語 (12) | 08A9012 | 濱田 聖子 | A1A2 | 2 |
| 共通中国語 (41) (PEAK 初級) | 08A4041 | 張 玉萍 | A1A2 | 2 | 共通アラビア語 (13) | 08A9013 | 濱田 聖子 | S1S2 | 2 |
| 共通中国語 (42) (北京研修) | 08A4042 | 刈間 文俊 | A1A2 | 2 | 共通アラビア語 (15) | 08A9015 | オダイマ ムハンマド | S1S2 | 2 |
| 共通中国語 (43) (後期 TLP 上級読解) | 08A4043 | 王 前 | S1S2 | 2 | 共通アラビア語 (16) | 08A9016 | オダイマ ムハンマド | A1A2 | 2 |

| 科目名 | 科目番号 | 担当教員 | 学期 | 単位 | 科目名 | 科目番号 | 担当教員 | 学期 | 単位 |
|--------------|---------|-------|------|----|--------------|---------|--------|------|----|
| 共通アラビア語 (17) | 08A9017 | 杉田 英明 | S1S2 | 2 | 台湾語 (3) (中級) | 08A9459 | 王 嵐 | S1S2 | 2 |
| 共通アラビア語 (18) | 08A9018 | 杉田 英明 | A1A2 | 2 | 台湾語 (4) (初級) | 08A9460 | 王 嵐 | A1A2 | 2 |
| 共通アラビア語 (19) | 08A9019 | 杉田 英明 | S1S2 | 2 | タイ語 (3) | 08A9463 | 浅見 靖仁 | S1S2 | 2 |
| 共通アラビア語 (20) | 08A9020 | 杉田 英明 | A1A2 | 2 | タイ語 (4) | 08A9464 | 浅見 靖仁 | A1A2 | 2 |
| ヒンディー語 (5) | 08A9421 | 藤井 毅 | S1S2 | 2 | モンゴル語 (3) | 08A9467 | 荒井 幸康 | S1S2 | 2 |
| ヒンディー語 (6) | 08A9422 | 藤井 毅 | A1A2 | 2 | モンゴル語 (4) | 08A9468 | 荒井 幸康 | A1A2 | 2 |
| ヒンディー語 (7) | 08A9423 | 藤井 毅 | S1S2 | 2 | ベルシャ語 (3) | 08A9471 | 前田 君江 | S1S2 | 2 |
| ヒンディー語 (8) | 08A9424 | 藤井 毅 | A1A2 | 2 | ベルシャ語 (4) | 08A9472 | 前田 君江 | A1A2 | 2 |
| ベトナム語 (5) | 08A9429 | 加藤 栄 | S1S2 | 2 | ヘブライ語 (3) | 08A9475 | 飯郷 友康 | S1S2 | 2 |
| ベトナム語 (6) | 08A9430 | 加藤 栄 | A1A2 | 2 | ヘブライ語 (4) | 08A9476 | 飯郷 友康 | A1A2 | 2 |
| ベトナム語 (7) | 08A9431 | 岩月 純一 | S1S2 | 2 | サンスクリット語 (3) | 08A9479 | 梶原 三恵子 | S1S2 | 2 |
| ベトナム語 (8) | 08A9432 | 岩月 純一 | A1A2 | 2 | サンスクリット語 (4) | 08A9480 | 高橋 晃一 | A1A2 | 2 |
| トルコ語 (5) | 08A9437 | 高松 洋一 | S1S2 | 2 | シリア語 (4) | 08A9484 | 高橋 英海 | A1A2 | 2 |
| トルコ語 (6) | 08A9438 | 高松 洋一 | A1A2 | 2 | 広東語 (5) (初級) | 08A9485 | 吉川 雅之 | S1S2 | 2 |
| トルコ語 (7) | 08A9439 | 高松 洋一 | S1S2 | 2 | 広東語 (6) (初級) | 08A9486 | 谷垣 真理子 | A1A2 | 2 |
| トルコ語 (8) | 08A9440 | 高松 洋一 | A1A2 | 2 | 広東語 (7) (中級) | 08A9487 | 郭 文ホウ | S1S2 | 2 |
| インドネシア語 (5) | 08A9449 | 高地 薫 | S1S2 | 2 | 広東語 (8) (中級) | 08A9488 | 吉川 雅之 | A1A2 | 2 |
| インドネシア語 (6) | 08A9450 | 高地 薫 | A1A2 | 2 | 専門中国語 (1) | 08B4001 | 楊 凱栄 | S1S2 | 2 |
| インドネシア語 (7) | 08A9451 | 高地 薫 | S1S2 | 2 | 専門韓国朝鮮語 (1) | 08B8001 | 長澤 裕子 | S1S2 | 2 |
| インドネシア語 (8) | 08A9452 | 高地 薫 | A1A2 | 2 | 専門韓国朝鮮語 (2) | 08B8002 | 未定 | A1A2 | 2 |
| 上海語 (3) (初級) | 08A9455 | 王 英輝 | S1S2 | 2 | 専門アラビア語 (1) | 08B9001 | 杉田 英明 | S1S2 | 2 |
| 上海語 (4) (初級) | 08A9456 | 王 英輝 | A1A2 | 2 | | | | | |

日本・アジアに関する教育研究ネットワークの活動

全学大学院生向けの『日本・アジア学』教育プログラムのほかに、以下の教育活動と研究交流活動を行っています。

1. 教育活動

- ・教養学部 前期課程（1, 2 年生）講義

分野／教養 Field : Art and Sciences

単位／2 Credit : 2

地域文化論 I ～日本・アジア学概論：国際社会で活躍する基盤を身に付ける～

| | | | |
|--|--|------------------|-----------------|
| 科目番号 Course ID Number | 32032 | 使用言語 Language | 日本語 Japanese |
| 担当教員 Teacher | ASNET 関連教員 | 場 所 Venue | 駒場キャンパス 512 教室 |
| 授業時間 Semester/Time | S semester 月 (Mon) 3 限 (13:00-14:45) | | |
| 授業の目標・概要 Course Objectives/ Overview | <p>わが国の国内経済は曲がり角を迎え、多方面で構造改革が叫ばれている。一方で国境の垣根はますます低くなり、世界標準（グローバルスタンダード）が押し寄せてくるとともに、環境問題のように地球全体で取り組むべき課題も山積している。これからは、国際社会で活躍できる人材が求められている。</p> <p>近年、アジアの成長は目覚ましく、アジアにおける経済、政治、技術、環境など各動向は、国際社会全体を大きく左右する。すなわち、アジアを学ぶことは国際社会で活躍するために不可欠である。</p> <p>本講義は、本学の「日本・アジアに関する教育研究ネットワーク (ASNET)」に参画する教員による日本・アジア学の概論と位置づけられる。様々な視点からアジアを切り取る方法論や知識を学ぶことにより、日本・アジア学の魅力を体験し、国際社会で活躍するためにどのような知識・能力・スキルが必要となるのかを理解する。</p> <p>第 1 回 (4/10) イントロダクション「地域研究の課題と魅力」(丸川知雄、社会科学研究所) 第 2 回 (4/17) 地域文化研究論入門 (村田雄二郎、総合文化研究科) 第 3 回 (4/24) 社会技術論入門 (小松崎俊作、工学系研究科) 第 4 回 (5/ 1) ケース I インドにおける社会基盤整備事業とビジネス (小松崎) 第 5 回 (5/ 8) 地域としてのインド (富澤かな、附属図書館 U-PARL) 第 6 回 (5/15) ゲスト講師 第 7 回 (5/22) ケース II イスラム圏とハラール産業 (後藤絵美、ASNET) 第 8 回 (6/ 5) 地域としてのイスラム圏 (後藤) 第 9 回 (6/12) ケース III 中国の法とメディア (徐行、東洋文化研究所) 第 10 回 (6/19) 地域としての中国 (徐) 第 11 回 (6/26) ケース IV 日本における移民政策 (森川想、工学系研究科) 第 12 回 (7/ 3) ゲスト講師 (予定) 第 13 回 (7/10) 全体のまとめ</p> | | |

履修上の注意
Notes on Taking the
Course

本講義は東京大学の学部 1, 2 年生向けです。大学院生等は受講できません。

詳しい情報はこちらで→



・学部向け講義

『日本・アジア学』の一部の科目（「アジアの近代と女性」・「書き直される中国近現代史」）は学部生にも開かれています。

・スタディツアーの実施

平成 28 年度は 9 月にインドネシアで、12 月にインドでツアーを実施しました。

・その他、教育セミナー等も随時実施しています。

2. 研究交流活動

・研究者の分野間交流

東洋文化研究所 (Institute for Advanced Studies on Asia) や国際総合日本学ネットワーク (Global Japan Studies) との共催で毎週木曜日午後5時からセミナーを開催しているほか、国際会議、シンポジウム、セミナー、研究会等も随時開催し、国際交流および分野間交流を進めています。



東京大学×テヘラン大学交流会 (2017年1月)



国際会議 The Relevance of Area Studies for the Sciences and Public Policy (2016年11月)

・ウェブサイト・メールマガジン

ASNETのウェブサイトでは、アジアに関連するセミナーや研究会、シンポジウム等の情報を紹介しています。またメールマガジンを毎週金曜日に発行しています。メールマガジンは誰でも無料で受信できます。

<https://asnet-utokyo.jp/>



詳しい情報はこちらで→





Human



Nature



History



Society



日本・アジアに関する教育研究ネットワーク

- 学生のアジア理解を深める「日本・アジア学」教育プログラム(研究科等横断)
- ウェブサイト、メールマガジン、メーリングリストを通じた情報・意見交換
- 研究者の国際交流・分野間交流の促進

ASNETではアジアに関する情報を掲載したメールマガジンを発行しています。
どなたでも、無料で受信することができます。
ウェブサイトから受信登録をするか、事務局までメールで受信希望のメールをお寄せください。

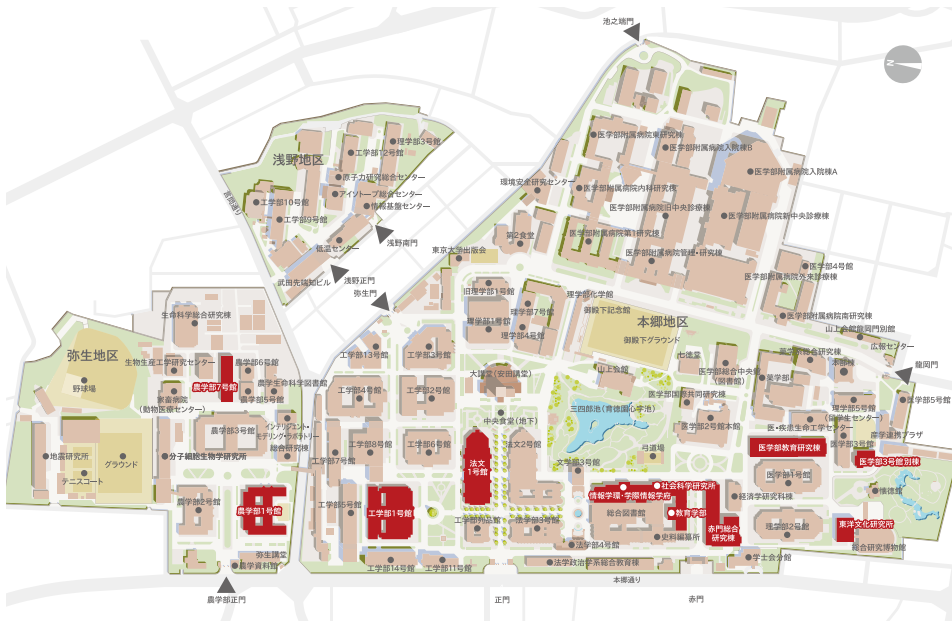
Network for Education and Research on Asia is a virtual network for the education/studies on Asia.
The network issues an e-newsletter for exchange of information on Asia. Subscription is free.
Please register at the website or contact the network office by e-mail for the subscription.

URL : <https://asnet-utokyo.jp/>

E-mail : asnet@asnet.u-tokyo.ac.jp

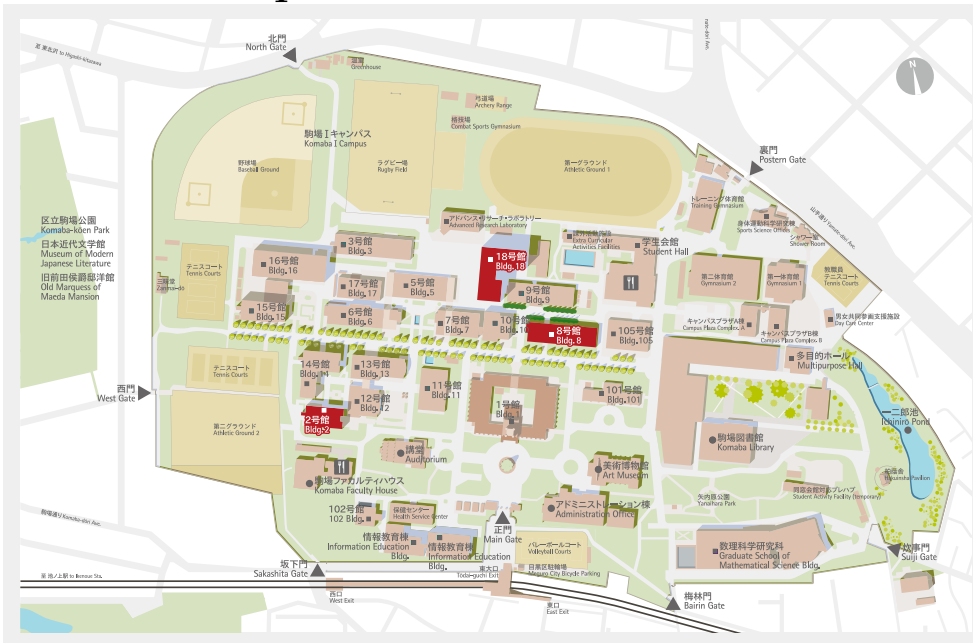
Hongo Campus

本郷キャンパス



Komaba Campus

駒場キャンパス



連絡先・お問い合わせ先

Contact and Inquiries

東京大学 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク

Network for Education and Research on Asia

| | |
|----------------|---------------------------|
| 電 話 / Tel | 03-5841-5868 |
| 内 線 / Ext | 25868 |
| メ ー ル / E-mail | asnet@asnet.u-tokyo.ac.jp |
| インターネット / URL | https://asnet-utokyo.jp/ |